

平成21年度第6回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時:平成21年11月30日(月)13:00～15:30

場 所:愛媛大学 本部第2会議室

議 題:

1. SPODフォーラム2009の実施について 【資料1-1】
 - ・SPODフォーラム2009チラシ 【資料1-2】
2. 研修プログラムガイド2010の作成について 【資料2】
3. 大学教育改革プログラム合同フォーラムへの参加について
 - ・平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」大学間連携の展開
(戦略的大学連携支援プログラム)ポスターセッション出展の募集について 【資料3-1】
 - ・平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」のポスターセッション
関係資料に掲載する貴学取組の紹介文の作成等について 【資料3-2】
 - ・平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」の開催について 【資料3-3】
4. 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ報告書について 【資料4】
5. ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップの開催について 【資料5】
6. SPOD事業における学内実施体制について 【資料6】
7. SPOD事業の実績の取りまとめについて
 - ・戦略的大学連携支援事業の取組事例 【資料7】
8. 平成21年度第2回SPOD愛媛県内加盟校会議について
 - ・平成21年度第2回SPOD愛媛県内加盟校会議概要(案) 【資料8】
9. SPOD事業における職員交流研修の実施について
 - ・職員交流研修確認書 【資料9】

(意見交換)

1. 詳細なニーズ調査について 【資料なし】
2. 遠隔講義システム対応のプログラム構築について
 - ・遠隔講義システム送信用マニュアル 【参考1】
 - ・遠隔講義システム受信用マニュアル 【参考2】
3. 平成23年度以降の運営体制について 【参考3】

SPOD フォーラムの実施について（案）

【開催場所】

SPOD コア校

（検討課題①）

- ・ SPOD フォーラムホスト校の持ち回りについて

※SPOD フォーラム 2009 は、第1回目のため愛媛大学をホスト校に開催した。

（持ち回りのメリット）

- ・ フォーラムを開催することで各コア校の経験が蓄積される。
- ・ コア校が所属する県の加盟校から参加者が増え、FD/SD への意識が高まる。

（持ち回りのデメリット）

- ・ 大きなイベントを行うためのノウハウを持っていない。
- ・ イベント開催を行うための人員・予算確保が難しい。

（提案）

・ 2010 は準備期間が短いこともあり、もう1年愛媛大学がホスト校として開催する。来年度以降については、例えば、2011 は高知大学、2012 は徳島大学、2013 は香川大学、2014 は愛媛大学がホスト校になることで検討を行う。2011 以降のホスト校については、今年度のコア運営協議会で決定したい（あらかじめ決定し準備期間を確保することができる）。

なお、上記デメリットを軽減するため、愛媛大学にて、フォーラムの運営方法等のマニュアルを作成する。また、SPOD フォーラム 2010 の運営スタッフに各コア校の担当者に入ってもらおう。2011 年度以降、SPOD フォーラムを開催するための仕組みについて検討を開始する。

【開催日程】

8 月下旬～9 月中旬

（検討課題②）

- ・ 8 月中開催について

（8 月中開催のメリット）

- ・ 小規模大学や高専の教職員が参加しやすい。

（8 月中の開催のデメリット）

- ・ 夏季における職員の負担が大きくなる。
- ・ 年度によって、開催時期を変更するとフォーラムが定着しづらい。

- ・ 土日を含めての開催について（コア協議会・アンケートでの意見より）。

（土日開催のメリット）

- ・ 県外の参加者が参加しやすい。
- ・ 小規模大学や高専の教職員が参加しやすい。

（土日開催のデメリット）

- ・ 運営補助者の確保（昨年度 80 名程度）が難しい。
- ・ 今年度と同数以上参加者（400 名）が確保できるか見込むことが難しい。

(提案)

・上記2件については、全加盟校を対象にアンケートを行う(参加しやすい日程調査)。開催時期については、フォーラムの定着させるため、9月10日前後が望ましい(教職員の業務閑散期)。また、実施期間(今年度は4日間)については、アンケート結果を基に日程が決まった後、検討する(12月のコア協議会で決定)。

(検討課題③)

・総会・各分科会の同時開催について。

(同時開催のメリット)

・フォーラムに参加している各大学の担当者が参加しやすい。
・フォーラムの日程があらかじめ決まっているため、各大学の学長が参加しやすい。

(同時開催のデメリット)

・8月、9月の総会開催では決算や活動報告などの重要案件を審議することができない。
・各分科会も同じく重要案件を話す時間等がない。

(提案)

・平成22年度の総会については、補助事業の最終年度ということもあり、3年間の総括や平成23年度の事業運営体制の最終的な方向性を決定する必要があるため、年度末等に開催予定。
・総会の日程については、学長が集まる機会やシンポジウムと連続させるなど、可能な限り出席者を増やす工夫をして決定する。
・各分科会については、SPODフォーラム期間中が各担当者の集まりやすい時期であるため、同時開催する。また、開催にあたっては、重要案件が議論できるような時間を確保できるような日程にする。

【申込み方法】

SPODフォーラム2009と同様、ホームページ限定申込み及び加盟校優先申込みを行う。

※今年度申込みの仕組み作りをしたため、引き続き行う。

【開講プログラム】

- ・各コア校は、2コマ以上のプログラムを提供する。
(SDプログラム開発の現況報告を除く)。
- ・テーマ別昼食会を開催する。
- ・今年度のSPOD加盟校外講師は、原則、来年度も引き続きお願いする。

(検討課題④)

・1時間のプログラム作成について(コア協議会・アンケートでの意見より)

(1時間コマ作成のメリット)

・プログラムの幅が広がり、参加者の選択肢が増える。

(1時間コマ作成のデメリット)

・スケジュール作成が難しくなる。
・ワーク等を取り入れた双方向型プログラムが行えない。

(提案)

・SPODフォーラムは、ワーク等を取り入れた双方向型プログラムを行っていることが特徴のひとつである。そのためには、2時間は必要である。また、休憩をとる時間が異なると1日のスケジュールを組み立てるのが、難しくなる。以上から、1コマは2時間とし、講師にはそれを前提としたプログラム作成をお願いする。講師には、双方向型プログラムを企画するためのティップスを配布する。

(検討課題⑤)

来年度のプログラム内容について（追加すべき分野・規模別プログラム等の実施）

(提案)

・全加盟校にプログラムについてのアンケート調査を行い、取りまとめた上次回以降検討する。
・今年度実施したアンケート結果に基づき、内容や講師の変更もコア校運営会議にて検討する。

【プログラムの遠隔配信】

昨年度同様、積極的に行う。

(検討課題⑥)

・遠隔配信に対応した教育方法の開発について

(提案)

・今年度を目処に遠隔配信に適した効果的な教育方法を開発する。また、各コア校は、担当のうち、最低1プログラムを遠隔配信することとする。

【アンケート】

昨年度同様、全体アンケート及び各プログラムのアンケートを行う。

(検討課題⑦)

・全体アンケートの回収率を上げるための方策（今年度の回収率22%）

(提案)

・参加者に当日の留意事項を送る際にあわせてアンケートへの協力について周知する。
・会場担当者からの周知を徹底する。また、ポスター掲示を行う。
・各プログラムのアンケートは引き続き、各プログラム終了後紙媒体で行うが、全体アンケートはフォーラム終了後に、個別にWEBアンケートを行う。そのための仕組みを構築する。

SPODフォーラム 2009

資料1-2

Shikoku Professional and Organizational Development Network In Higher Education



SPODフォーラムは… 大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ多種多様で質の高いFD/SDプログラムならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

日時

2009年 9/8 (火) ~ 11 (金)

場所

愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズなど

主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

**参加費
無料**

(懇親会、昼食会
は除く)

参加申込期間

※事前申込制(先着順)

SPOD加盟校の教職員・学生限定受付

2009年 7月7日(火)正午~7月17日(金)正午

一般受付 (SPOD加盟校の方も申込可)

2009年 7月22日(水)正午~8月4日(火)正午

詳細・申込はWEBをご覧ください ▶ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

特徴 1

多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学トップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェSSIONナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえました。

特徴 2

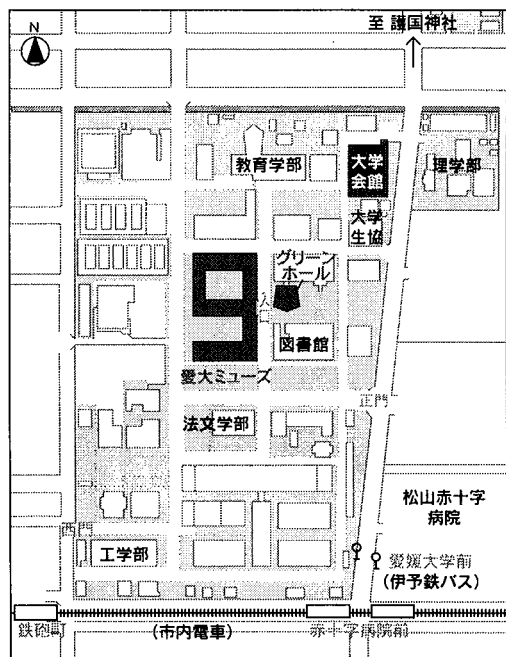
職場で使える
実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラムが数多く開講されます。参加者には意見を出し合い知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特徴 3

SDプログラムも
多数開講

SPODでは、FD同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講しています。教育改善に関心のある多くの職員の方の参加をお待ちしております。SDプログラムは教員の方も参加いただけます。



※駐車スペースはありませんので、公共交通機関の使用をお願いいたします。

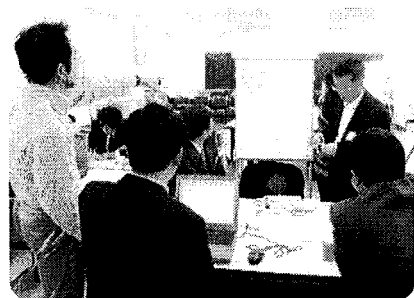
主な交通機関

JR松山駅から

・伊予鉄道市内電車…環状線①(古町方面行き)「赤十字病院前」下車
・伊予鉄バス……………東西線「愛媛大学前」下車

松山市駅から

・伊予鉄道市内電車…環状線②(大街道方面行き)「赤十字病院前」下車



お問合せ先

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育企画課)
☎ 089-927-9154 ✉ E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

開催スケジュール

プログラムの詳細はWEBをご覧ください▶ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

時間		会場	1日目 9月8日(火) 受付開始 12:00~[愛大ミュージアム1階]	4日目 9月11日(金) 受付開始 9:00~[愛大ミュージアム1階]
1	10:00~11:00	グリーンホール		ネットワーク総会
	11:00~12:00	M23 M31		①ネットワークFD分科会 ②ネットワークSD分科会
2	13:00~15:00	学生活動スペース(2)	FD わかりやすいシラバスの書き方 佐藤浩章(愛媛大学)	FD 授業の双方向性を高めるクリッカー入門 秦敬治(愛媛大学)
3	15:30~17:30		FD 様々な評価方法 野本ひさ(愛媛大学)	FD 講義のための話し方入門 小林直人(愛媛大学) 飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

9月8日(火)、11日(金)の4つの研修プログラムは、愛媛大学FDスキルアップ講座を加盟校に開放して行うものです。お手数ですが、開講日2週間までに、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(info@iec.ehime-u.ac.jp)に直接申し込みください。

また、9月11日(金)のネットワーク総会、FD分科会、SD分科会については、SPOD加盟校の教職員のみ参加対象となります。別途、SPOD加盟校の事務担当者に開催案内を送付します。

時間		会場	9月9日(水) 受付開始 9:00~[愛大ミュージアム1階]	定員 各30名	愛媛大学キャンパス・ツアー (11:00~12:00、13:00~14:00、15:30~16:30)
1	10:00~12:00	グリーンホール	FD・SD共通 教員主導・学生主体の授業の進め方①②③ 中村文子 (ダイナミックヒューマンキャピタル(株))	定員 30名	
		学生活動スペース(2)	SD 経営者、管理者養成プログラムの考え方や手法~大学経営を担う役割をどう果たすか 小日向允(大学職員サポートセンター)	定員 60名	
2	13:00~15:00	グリーンホール	FD ティーチング・ポートフォリオとは何か? 栗田佳代子 (大学評価・学位授与機構)	定員 270名	
		学生活動スペース(2)	SD 「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム開発」現況報告 久保研二、大竹奈津子、大谷哲夫、堀出和久、上田亜貴子 (愛媛大学)	定員 40名	
3	15:30~17:30	グリーンホール	FD ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方 小林直人(愛媛大学)	定員 270名	
		学生活動スペース(2)	FD 授業進度を落とさずアクティブラーニングTBL(Team Based Learning: チーム基盤学習)の実際 立川明(高知大学)	定員 30名	
			SD キャリア教育入門 葛城浩一(香川大学)	定員 40名	
			SD 「学務系職員養成プログラム開発」現況報告 出川隆富、榎谷和也 (徳島大学)	定員 40名	
			SD 事務職員はFDにどう関わるか 西尾澄気、河野太志、石川尚(愛媛大学)	定員 30名	
			FD POD2008参加報告 宮田政徳、川野卓二 (徳島大学)	定員 40名	
			FD 大学職員のための企画力養成講座①② 秦敬治(愛媛大学)	定員 40名	
			FD どうする?初任者研修 川野卓二、宮田政徳、香川順子(徳島大学)	定員 30名	
			FD 学生との話し方・関わり方 平澤明子(愛媛大学)	定員 30名	

時間		会場	9月10日(木) 受付開始 9:00~[愛大ミュージアム1階]	定員 各30名	愛媛大学キャンパス・ツアー (10:30~11:30、13:30~14:30)
1	10:00~12:00	グリーンホール	FD・SD共通 プレゼンテーションの極意 ①講義でも使える「聴き手を魅了する構成法」とは? 佐藤浩章(愛媛大学)	定員 270名	
		学生活動スペース(2)	FD 授業公開と授業アンケートの効果的な活用方法 佐藤浩章(愛媛大学)	定員 40名	
12:10~12:50		昼食会(テーマ別会場) 会場:愛媛大学学生会館 ※会費500円(弁当+お茶 事前申込み制) 会場受付で支払い			
2	13:00~15:00	グリーンホール	FD ②「聴衆を引きつける話し方」の秘訣とは? 田中省三(愛媛大学)	定員 40名	
		学生活動スペース(2)	FD ものづくりとアクティブラーニング 英崇夫(徳島大学)	定員 40名	
3	15:30~17:30	グリーンホール	FD 人文系授業のTBL入門 塩崎俊彦(高知大学)	定員 30名	
		学生活動スペース(2)	学生 学生による大学教育改革提言作成ワークショップ①② SPOD加盟校の学生		
18:00~20:00		懇親会 会場:愛媛大学学生会館 ※会費4,000円(事前申込み制 会場受付で支払い)			

研修プログラムガイド2010の作成について（案）

（趣旨）

SPOD加盟校が実施するFD／SDプログラムのうちで、開放できるプログラムについて、加盟校の教職員が参加しやすいよう予め内容及びスケジュールを示すもの。また、各加盟校で実施されているプログラムを参考できるようにする。（表現は検討する必要はあるが、どのようなプログラムが実施されているか参考にしたいとの意見に対応するため）

（対象プログラム）

全SPOD加盟校のFD（教員対象）、FD／SD（教職員対象）、FDer養成（ファカルティ・デベロッパー対象）、プレFD（大学院生対象）、SD（職員対象）プログラム

（内容）

- 「研修プログラムガイド2010」発刊にあたって
- 利用の手引
- SPODの概要説明
- 日程表
- 索引（開催場所別、カテゴリー別）
- レベル別マップ（新規項目）
 - 各プログラムのレベルの決め方は以下のとおりとしたい。
 - FD・・・編集責任者がFDマップ（国研）に当てはめる。
 - SD・・・編集責任者が愛媛大学のSD担当者と相談し、決定する。
- 内容紹介（FD／SD、）
- SPODフォーラム
- 遠隔配信予定
- （参考）各大学学内向け（学外非公開）研修一覧
 - 掲載対象は全大学としたい。
- 申込み・お問い合わせ・遠隔配信に関する説明
- その他

（発行時期等）

発行時期：平成22年4月

発行部数：A4サイズ 8,000部（SPOD加盟校 教員 5,500＋職員 2,500）

※今年度も発行部数も同数

（作成スケジュール）

- 2月中旬 掲載プログラムの確定（ネットワークコア運営協議会）
プログラム名、FD/SD等の区分、遠隔配信の有無
- 2月末 原稿締め切り
- 3月 印刷業者原稿渡し
- 4月中旬 印刷業者納品、各大学へ配付

SPODガイドブック 原稿作成要領（案）

SPOD FD/SDガイドブックに掲載する「加盟校に開放できるプログラム」について、「研修プログラムガイド2009」の記載内容を参考にしながら、下記のとおり「内容紹介」の原稿作成をお願いします。レイアウト等については、こちらでフォーマットに落とし込んだ上で調整しますので、まずは文章等について word 等で作成してお送りください。

原稿作成〆切：平成22年2月末日

原稿提出先：各コア校

編集責任校：愛媛大学（担当：教育・学生支援機構 教育企画室）

※作成にあたっては、各コア校と連携・協力して行う。

【1回2～3時間程度のセッションの場合】…半ページ

- ① 目標 … 50～70字程度
- ② 講師氏名・所属大学・所属部署名 … （例）○山○夫（△△大学○○）
- ③ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名、階も）
- ④ 主な対象者 … 40字以内 （例）全教員、とりわけ講義を持つようになって間もない教員
- ⑤ 対象校（地域別、設置形態別） … 留意事項をご覧ください。
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑨ 内容 … 箇条書きで合計400～480字程度
- ⑩ 参考となる写真、ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑪ 受講者の声（アンケートからなど）
- ⑫ 準備物について

【合宿セミナー等】…1ページ

- ① 目標 … 250字程度
- ② 講師氏名・所属大学・所属部署名 … （例）○山○夫（△△大学○○）
- ③ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名、階も）
- ④ 主な対象者 … 40字以内 （例）全教員、とりわけ講義を持つようになって間もない教員
- ⑤ 対象校（地域別、設置形態別） … 留意事項をご覧ください。
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑨ 内容 … 箇条書きで合計1000字程度
- ⑩ 参考となる写真、ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑪ 受講者の声（アンケートからなど）
- ⑫ 準備物について

(記載にあたっての留意事項)

④主な対象者欄

対象者は、ニーズとのミスマッチを防ぐために、教員、職員、大学院生などの職種やニーズを明確に表現して下さい。複数を対象としても構いません。

例 1) 授業でのグループディスカッションやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

例 2) FD を担当する教職員

例 3) 新任教員(但し、授業担当経験 5 年以上を除く)、参加を希望する教員、

例 4) 職員(課長補佐以上)

また、記載方法については、以下の点にご留意ください。

- ・記載を統一する。

- 「事務職員、大学職員等」→「職員」。

- 「新規に採用された教員、初任者教員等」→「新任教員」

- ・対象校を表す言葉(〇〇大学、SPOD 加盟校等)を使用しない。

- 「・・・である SPOD 加盟校の職員」→「・・・である職員」

- 「・・・以上の愛媛大学教職員」→「・・・以上の教職員」

- ・役職を統一する(大学独自の役職名ではなく、一般的な役職名にする)。

- 「グループリーダー」、「副課長」、「チームリーダー」等は使用せず、「課長」「課長補佐」、「係長」、「主任」、「係員」とする。

⑤対象校(地域別、設置形態別)

できる限り SPOD 全加盟校に開放してください。記載方法は、以下例示のように記載してください。

(例)

- ・SPOD の全加盟校に開放・・・SPOD 全加盟校

- ・愛媛県内加盟校のみ開放・・・SPOD 加盟校(愛媛県内のみ)

- ・短期大学のみ開放・・・SPOD 加盟校(短期大学のみ)

- ・愛媛県内の私立大学のみ開放・・・SPOD 加盟校(愛媛県内の私立大学のみ)

⑨内容

対象プログラムがどのようなことを行うか分かるように詳しく記載してください。例えば、章毎のタイトルなどを明示するとわかりやすくなります(アンケートで内容を詳しく記載してほしいという要望がありました)(別添、参考事例参照)。

平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」 大学間連携の展開（戦略的大学連携支援プログラム） ポスターセッション出展取組の募集について

平成21年9月15日
文部科学省高等教育局
大学振興課大学改革推進室

1 ポスターセッションの概要

文部科学省が主催する、平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」内で行われます。各大学が各自で作成した掲示物等により、各々のブースで、平成20年度「戦略的大学連携支援事業」で採択された取組に関する情報発信をするものです。来場者は、各大学等のブースに立ち寄り、取組担当者等からの説明を受けることなどにより、取組に関する情報を得ることができます。

大学間連携による具体的な取組内容や成果をはじめ、課題や苦労している点など、大学間連携を進めていくうえで各大学が情報を共有し、今後の更なる展開につなげるための貴重な場となりますので、積極的なご参加をお待ちしています。

（参考）20年度合同フォーラムの様子

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gp/006/1225085.htm

2 開催日時

平成22年1月7日（木）11時～16時30分

（各大学には、当日10時から準備をしていただきます。）

3 開催場所

東京ビッグサイト レセプションホール （東京都江東区有明3-21-1）

4 募集件数

10件程度（大学間連携に関するブース）

5 応募対象

・平成20年度「戦略的大学連携支援事業」選定取組のうち、大学間の連携取組が具体的に展開されている取組

（昨年度までの「大学教育改革プログラム合同フォーラム」は、当該年度に選定された取組を対象としていましたが、今年度は、過年度選定取組によるポスターセッションを実施し、具体的な取組状況や成果などについて意見交換いただくことを予定しています。）

6 発表方法

（1）発表場所

各取組に用意されるブースにて発表していただきます。

（2）発表者

取組実施担当者をはじめ、取組について説明できる方にブースに待機していただき、来場者に対し説明や質疑応答を行っていただきます。

(3) 発表者にご用意いただくもの

- ①横幅180cm×縦幅120cm以内の大きさで、ポスターをご用意ください。ポスターは、1枚の用紙であっても、複数枚の用紙で構成されていてもかまいません。指定の大きさの範囲内で自由に構成できます。
- ②ポスターを貼る発表用ボードの使い方には、特段の制限はありません。ポスターには、文字情報のほか、図表や写真を入れることも可能です。
- ③発表用ボードの前に、机と発表者が待機するための椅子を2つ用意します。机は、資料やデモンストレーション用パソコンを置くなどして、ご活用いただけます。(ただし、各ブースには電源・LAN回線の配線ができないため、必要な場合は、各自で充電器等を準備してください。)
- ④取組の具体的な内容や特徴、成果、課題、今後の展開などが分かるように、資料等を作成してください。

7 経費

出展に係る旅費、ポスターの作成費等は各大学の負担となります。本補助金からの経費支出が可能です。

8 応募方法

ポスターセッションへの出展を希望される場合は、別添の「PS参加校担当者名簿」に必要事項を記載し、平成21年9月25日(金)までに、m-okui@mext.go.jp宛メールにて送付してください。その際、メールの件名を「【戦略連携】ポスターセッション参加希望(〇〇大学)」としてください。

9 その他

- ・応募数、地域や分野のバランス等を踏まえ、文部科学省にて出展取組を調整し、9月中を目処に決定します。応募多数の場合は、ご希望に添えないこともありますので、予めご了承ください。
- ・出演する取組には、詳細を別途お知らせいたします。

(本件問合せ先) 文部科学省高等教育局

大学振興課大学改革推進室(奥井)

電話 03(5253)4111(内線3319)

e-mail m-okui@mext.go.jp

題名 【ご連絡】大学教育改革プログラム合同フォーラムの出展について
差出人 nari@mext.go.jp

関係大学等担当者各位

お世話になっております。

さて、9月に希望を聴取しておりました、標記フォーラムのポスターセッションについて、
「戦略的大学連携支援プログラム」に関しては貴学に出展をお願いしたいと存じます。

詳細については、事業の事務を担当します(財)文教協会から連絡がいくと思いますので、それにしたがって準備を進めていただきますよう
よろしくお願いいたします。

ご連絡が遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

記

戦略的大学連携支援プログラムのポスターセッション

日時：平成22年1月7日(木)11：00～16：00(予定)

ブースの都合上、出席者は各校2名までとします。

文部科学省 高等教育局 大学振興課
大学改革推進室 改革支援第二係長

成 相 圭 二

住所：千代田区霞が関3-2-2
電話：03-5253-4111(内線3319)
FAX：03-6734-3385

文 協 第 22 号

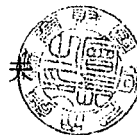
平成 21 年 10 月 28 日

平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」

ポスターセッション出展校 事務担当者 殿

財団法人文教協会

会長 菴 谷 利 夫



平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」のポスターセッション
関係資料に掲載する貴学取組の紹介文の作成等について（依頼）

財団法人文教協会は、これまでどおり標記フォーラム開催に関する業務を担当することとなりました。何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

標記フォーラムは、平成 22 年 1 月 7 日（木）・8 日（金）、東京ビッグサイトで開催されますが、ポスターセッションについては、既に文部科学省担当課から連絡を受けていると存じます。この文書について、お送りしている貴学関係のアドレスは同省から連絡を受けたものです。今後、標記フォーラムについての連絡は、このアドレスで行うこととなりますが、変更がある場合はお知らせください。

さて、ポスターセッション出展校すべての取組の概要を掲載した資料を作成し、フォーラムの参会者に配布することとしております。資料に掲載する貴学取組を紹介する文章（概要）をとりまとめ、11月15日（日）までに返信して下さるようお願いいたします。入力から返信までの手順は、本依頼文を通知したメールの記2～6に記載しております。

なお、ポスターセッションの実施の詳細については、近く別途ご連絡します。

財団法人文教協会

担当 宮森・小杉

Eメール forum@bunkyo21.org

**平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」
ーポスターセッション入力フォーム**

① ポスターセッション取組番号

063

② プログラム

大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

③ 採択年度

20 年度

④ 学校名

愛媛大学

⑤ 設置

国

※ ①～⑤までは固定

⑥ 郵便番号

790－8577

⑦ 住所

愛媛県松山市文京町 3

⑧ 貴校以外の共同取組校

徳島大学、高知大学 愛媛県立医療技術大学、高知女子大学、高知工科大学、四国大学、聖カタリナ大学、松山大学、松山東雲女子大学、今治明德短期大学、愛媛女子短期大学、松山東雲短期大学、松山短期大学、高知学園短期大学、高知工業高等専門学校

⑨ 取組名（全角 120 字以内）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上

⑩ 取組の要約（全角 120 字以内）

四国地区の国公立大学等が連携し、教職協働で FD/SD（教職員の能力開発研修）の共同開発・実施・評価を行うことで、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、教育の質の保証を図る。

⑪ 取組概要（全角４５０字以内）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（略称：SPOD）では、ネットワークコア校（四国地区の国立大学）を中心に、①新任教員を含む教員向けの様々なFDプログラムを標準化して提供し、②教職協働でニーズに応じたSDプログラムを共同開発・実施するとともに、③大学院生やポスドク向けの標準的プレFDプログラムを共同開発している。さらに、教職員のキャリア形成支援等を目的に、ティーチング・ポートフォリオ（教育業績記録）とスタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の開発も行っている。最大の特徴は、コア校がネットワーク加盟校である四国内の国公立大学・短期大学・高等専門学校と連携し、プログラムの共同実施や成果の検証を行うほか、研究員・講師の派遣や大学間人事交流など、単独大学では困難な事業を展開することにより、ネットワーク内の高等教育機関に関わる全教職員の能力向上を図ることである。これにより、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量をもった、高等教育のプロフェッショナルを四国から輩出することとしている。

「数字は丸囲い数字」

⑫ 取組詳細 Web サイト（半角英数字）

<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

担当者 1（事務担当者）

⑬ 氏名 性 長野 名 智

⑭ 所属 教育学生支援部教育企画課

⑮ 電話番号 089-927-9154（勤務先） 0*****（携帯）

⑯ FAX 番号 089-927-8100

⑰ E-mail（半角英数字） spod@stu.ehime-u.ac.jp

担当者 2（取組担当者）

⑱ 氏名 性 佐藤 名 浩章

⑲ 所属 教育・学生支援機構教育企画室副室長

平成21年11月

各 位

平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」の開催について（ご案内）

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さてこのたび、「国公立大学を通じた大学教育改革の支援の充実」各プログラムを一堂に会した合同フォーラムを開催いたします。

本フォーラムは、主に各プログラムに選定された取組の紹介を通じて、他大学における教育改革の取組の参考となるよう、情報提供の一貫として開催するものです。

大学教育改革の一層の推進を図り、高等教育の活性化ならびに高度な人材育成等にお役立ていただくため、本フォーラムへの積極的なご来場を、周知・ご配慮いただければ幸甚に存じます。

ポスターセッションにつきましてはご自由に来場いただけますが、基調講演・職員向け講演および分科会については、会場の収容能力の関係から事前申込制としております。合同フォーラムWebサイト（<http://www.bunkyo21.org/>）内の参加登録フォームからお申し込みください（11月16日（月）より受付開始）。定員になり次第締め切りますので、お早めのお申し込みをお願い申し上げます。

謹白

記

- 1 開催日 平成22年1月7日（木）・8日（金）
- 2 場 所 東京ビッグサイト会議棟
東京都江東区有明3-11-1（<http://www.bigsight.jp/>）
《最寄駅》りんかい線：「国際展示場」駅より徒歩約7分
ゆりかもめ：「国際展示場正門」駅より徒歩約3分
- 3 内容等 別添ポスターならびにパンフレットのとおりに

《大学教育改革プログラム合同フォーラム事務局》

財団法人 文教協会内

URL：<http://www.bunkyo21.org/>

□本件に関するお問合せは、下記メールにてお願いいたします

E-mail：forum@bunkyo21.org

平成21年度

大学教育改革プログラム 合同フォーラム

平成22年1月7日(木)
1月8日(金)

東京ビッグサイトにて開催

主催 文部科学省・財団法人文教協会

文部科学省では全国の国公立大学・短期大学・高等専門学校の優れた教育プロジェクトを支援するプログラムを実施しています。今回、東京都有明で以下のプログラムが一堂に会し、今年度選ばれた取組の紹介をはじめ、大学教育改革の現状について広く社会へ情報発信を行うフォーラムを開催します。情報収集の場としてぜひご来場ください。

▶ 参加プログラム

- 大学教育推進プログラム
- 学生支援推進プログラム
- グローバルCOEプログラム
- 大学院教育改革推進プログラム
- 戦略的産学連携支援プログラム
- 国際化拠点整備事業
- 周産期医療環境整備事業
- 看護職キャリアシステム構築プラン
- がんプロフェッショナル養成プラン

▶ フォーラムの主な内容

基調講演 【事前申込制】	分科会 (グループディスカッション) 【事前申込制】	ポスターセッション 【入場自由】
天野郁夫 東京大学名誉教授 による講演が行われ今後の教育に関する議論が展開されます。	各大学等の事例発表が行われ、プロジェクト担当者から、改革の参考となる取組のエッセンスを中心として紹介されます。これらに対する意見交換が行われます。	各ブースで今年度(19～20年度含む。)選定取組に関する情報発信が行われます。参加者が自由に意見交換の出来る情報交換室も設けられます。

▶ 開催スケジュール

※ COE : 「卓越した拠点 (Center of Excellence)」を「COE」と呼んでいます。
※ GP : 「優れた取組 (Good Practice)」を「GP」と呼んでいます。

	会議棟7階 国際会議場	会議棟6階 605・606会議室	会議棟6階 607・608会議室	会議棟1階 レセプションホール
平成22年1月7日(木)	【事前申込制】 10:30～11:45 基調講演 天野郁夫 東京大学名誉教授 13:30～15:00 総合的な学生支援 (学生支援推進プログラム) 16:00～17:30 大学間連携の展開 (戦略的産学連携支援プログラム)	【事前申込制】 14:50～17:30 大学院教育改革の現在 第1部 グローバルCOEプログラム 第2部 大学院教育改革推進プログラム	【事前申込制】	【入場自由】 11:00～16:30 ポスターセッション 平成21年度(19～20年度も含む。)選定取組等の紹介 ・学生支援推進プログラム ・大学院教育改革推進プログラム ・戦略的産学連携支援プログラム ・産学連携による実践型人材育成事業 ・専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム ・社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
平成22年1月8日(金)	【事前申込制】 10:30～12:00 特色ある優れた学部教育の展開 (大学教育推進プログラム) 13:30～15:00 職員向け講演 横田久 大学行政管理学会前会長 16:00～17:30 大学教育の質保証 (大学教育推進プログラム)	【事前申込制】 10:30～12:00 短期大学の挑戦 (大学教育推進プログラム) 16:00～17:30 大学教育の国際化 (国際化拠点整備事業)	【事前申込制】 10:30～12:00 がん対策専門医療人の養成 (がんプロフェッショナル養成プラン) 16:00～17:30 医療系人材の養成 (周産期医療環境整備事業・看護職キャリアシステム構築プラン)	【入場自由】 11:00～16:30 ポスターセッション 平成21年度(19～20年度も含む。)選定取組等の紹介 ・質の高い大学教育推進プログラム ・質の高い大学教育推進プログラム(短期大学) ・大学教育の国際化加速プログラム ・がんプロフェッショナル養成プラン ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業

お問い合わせ先(メールでのお問い合わせをお願いいたします)

財団法人文教協会 TEL: 03-3356-9183 e-mail: forum@bunkyo21.org

フォーラムの詳細・参加登録はこちら ▶ <http://www.bunkyo21.org>

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ報告書

日時：平成 21 年度 11 月 7 日（土）～8 日（日）

場所：国立大洲青少年交流の家

参加者：愛媛大学 3 名、松山大学 2 名、徳島大学 5 名 計 10 名

【目的】

本ワークショップは将来、初等・中等および高等教育などの教育機関で働きたいと考えている大学院生を対象に、授業など教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を習得することを目的としている。

【内容】

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程（授業プランの作成と実践）をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経て、インストラクショナル・スキル、コミュニケーション・スキルを身につけることができる内容となっている。授業プランの作成にあたっては、「目標設定と授業プランの作成」「様々な授業方法」「よりよい評価の仕方」「効果的なプレゼンテーションのコツ」の 4 講座を開講し、講義とグループワークを組み合わせることで、知識をその場で活用できる形式となっている。

【アンケート結果】

アンケートは、ワークショップ終了直後と 1 週間後の計 2 回行った。修了直後のアンケート結果では、満足度が 90%（質問 1-3）と非常に高い結果となった。プログラムの内容に関しても肯定的な意見が大半であり（質問 3-2～3-4）、学部生・大学院生時代にインストラクショナル・スキルを学ぶことが重要であると全ての参加者が回答する結果となった（質問 6-2）。また、講義やスタッフの助言などに対しても肯定的な意見が大半を占めた（質問 5-1～5-3）。さらに、今回のワークショップを後輩や友人に薦めたいですかという質問に対して、90%の参加者が「そう思う」と回答した（質問 6-3）ことから、今回のような大学院生向けのワークショップの必要性を感じる結果となった。

1 週間後のアンケートは、学習の再確認と定着を目的に実施した。11 月 24 日現在で、55%の参加者（回答者数 9 名）が既に学習したことを実践で活用しているという報告があった。

【所感】

参加者がインストラクショナル・スキルを活用する場面としては、研究室や TA 業務などが挙げられる。これまでそのような場面で一般的な学生は、経験や勘といったもので“教える”ことを行ってきたと考えられる。アンケートの結果からも分かるように、本ワークショップに参加した学生たちは、学んだ知識や技術を活用することによって、より効果的に“教える”ことを実践できることが期待される。また参加者全員が、インストラクショナル・スキルを学ぶことが必要であると回答していることから、その重要性が感じることができる。しかしながら、目標の達成度を見てみると、目標が十分に達成されたとは言い難い面もある（質問 4-2）。これに関しては、参加者がワークショップの目的や目標をよく理解できていないままに、講師がワークショップを進めたことがひとつの原因であると考えられる。そのため講師が、常に参加者へワークショップの目的や目標への理解を促し、それがどのように実際の場面で活用されるかということも同時に述べるのが、学習効果を高めるために重要であると考えられる。

最後に、今回各大学の SPoD 事務局の方には、大学院生への広報および募集に関して多大な尽力をいただきました。スタッフ一同厚く御礼申し上げます。

資料：1. 実施要領、2. スケジュール、3. 事後アンケート結果

1. 実施要項

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室
四国地区大学教職員能力ネットワーク(SPOD)

2. 期 間

平成21年11月7日(土)～8日(日)

※集合・出発時刻

国立大洲青少年交流の家集合時刻:9:30

愛媛大学から出発する場合 7:40 城北キャンパス正門前集合 8:00 時出発(マイクロバスで移動)

※解散時刻

13:30 国立大洲青少年交流の家解散

愛媛大学に戻る場合 15:00 城北キャンパス正門前解散

3. 場 所

国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086, TEL:0893-24-5175 / FAX:0893-24-2909

4. 参加対象者

将来, 初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

5. 参加費

3,500 円(宿泊費, 食費, 懇親会費)

※愛媛大学と国立大洲青少年交流の家の往復はマイクロバス(無料)を利用いたします。

参加費には、愛媛大学までの交通費は含んでおりませんので、ご注意ください。

6. 定員

30名

7. 実行委員

愛媛大学 教育学生支援機構 教育企画室 教員・研究員

徳島大学 大学開放実践センター 教員

8. ワークショップの目的

授業など教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てインストラクション・スキル、コミュニケーション・スキルを身につけます。

9. ワークショップの目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. 教えるための計画書を書けるようになる。
3. 様々な教育方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。

10. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる大学・研究科の大学院生が、意見交換をすることで、学習効果を高めます。

11. その他

1. 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
2. 宿泊しますので、洗面道具・タオル・寝間着・虫さされなどの常備薬等をご準備ください。
3. 宿泊料・食事代等の 3500 円については、当日会場にて一括で徴収させていただきます。
4. 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

12. 本件に関する問い合わせ先

教育企画室 外線番号 (089)927-8900 内線番号 8900

担当者 久保 研二 kuboken@iec.ehime-u.ac.jp

2. スケジュール

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

9:30 現地到着

（敬称略）

時刻	内容	講師・司会	場所
9:40－9:55	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い	山内	視聴覚室
9:55－10:25	(2) アイスブレーキング ・自己紹介 ・グループワーク	岸岡	視聴覚室
10:25－10:45	(3) グループワークⅠ 「良い教え方と悪い教え方」	泉谷	視聴覚室
10:45－11:25	(4) 講義Ⅰ「目標設定と授業プランの作成」 ・目標設定と授業プランの立て方 ・授業プランの書き方	久保	視聴覚室
11:25－12:15	(5) グループワークⅡ「授業開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業プランの作り方	スタッフ一同	視聴覚室
12:15－13:15	集合写真撮影・昼食・休憩		食堂
13:15－14:05	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業	城間	視聴覚室
14:05－14:15	休 憩		
14:15－14:45	(7) 講義Ⅲ「よりよい評価の仕方」 ・評価の目的 ・評価の方法と評価対象 ・効果的なほめ方と叱り方	大竹	視聴覚室
14:45－15:45	(8) グループワークⅢ「授業開発Ⅱ」 ・授業プラン作成 ・授業プランの評価作成	スタッフ一同	視聴覚室
15:45－16:00	休 憩		
16:00－17:30	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」	吉田	視聴覚室
17:30－18:30	(10) グループワークⅣ「授業開発Ⅲ」 ・授業プラン作成	スタッフ一同	視聴覚室

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
18:30-19:30	夕食・散策・お風呂		食堂など
19:30-20:20	(11)講義Ⅲ「効果的なプレゼンテーションの方法」 ・論理的に話すコツ ・魅せるプレゼンの方法	山内	視聴覚室
20:20-21:00	(12)グループワークⅤ「授業開発Ⅳ」 ・授業プラン作成	スタッフ一同	視聴覚室
21:00-21:30	交流会		リフレッシュルーム
21:30-	自由時間・お風呂		

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
7:30-8:30	朝食・散策		食堂
8:30-9:30	(12)グループワークⅥ「授業開発Ⅴ」 ・役割決定 ・授業の練習	スタッフ一同	視聴覚室
9:30-11:30	(13)グループ発表Ⅱ「ミニ授業（導入の10分）」 ・授業紹介 3分 ・ミニ授業 10分 ・他グループからのコメント 3分 ・討議・検討 12分	大竹・吉田	視聴覚室
11:30-12:30	(14)閉会式 ・グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・修了証書授与 ・閉会の言葉	山内・香川	視聴覚室
12:30-13:30	昼 食		食堂

13:45 現地出発

④ 様々な評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった。

4-3. 受講による経験や知識を今後の大学生活や社会生活に活かすことができると思う。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

4-4. 4-3 で①, ②と答えたかたに質問です。それは具体的にどのような場面で活用できそうですか。

4-5. 4-3 で③, ④, ⑤と答えた方に質問です。それはなぜですか。

【スタッフについて】

5-1. スタッフの指導・助言の方法は効果的であった。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

5-2. スタッフの専門知識や経験は有益であった。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

5-3. スタッフと受講生とのコミュニケーションはとれていた。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

【その他】

6-1. ワークショップ会場は快適な環境であった。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

6-2. 学生、大学院生時代にインストラクションに関する知識・技能を学ぶことは重要である。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

6-3. 本ワークショップの受講を後輩や友人に勧めたい。

①強くそう思う ②まあそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない

【本ワークショップの良かった点、あなたのやる気を向上させた点、次回以降も継続して行うべき点を具体的に記述して下さい。】

(内容、進め方、施設・設備、教科書、スタッフ、受講生数)

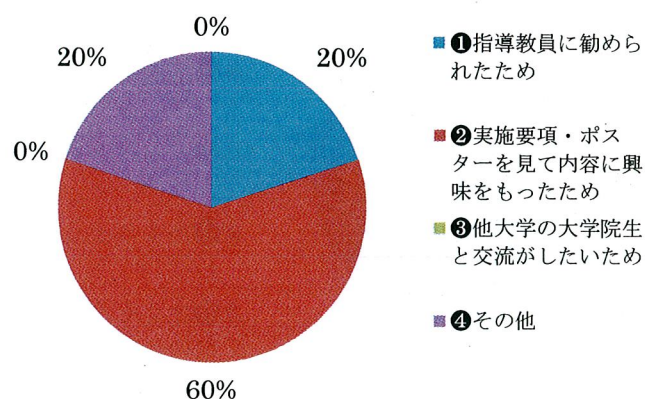
【本ワークショップをさらに良くするために必要な事、あなたのやる気を下げた点、次回以降は十分に検討した方が良い点を具体的に記述して下さい。】

(内容、進め方、施設・設備、教科書、スタッフ、受講生数)

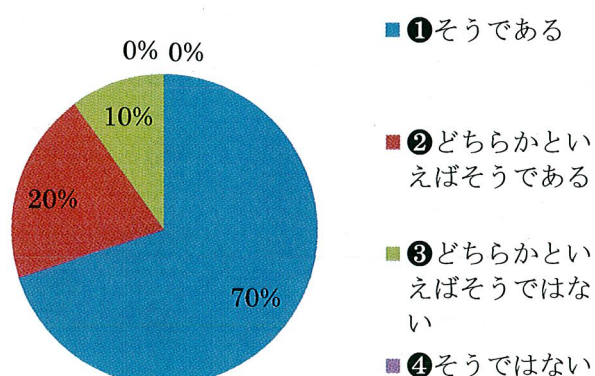
ご協力ありがとうございました。近くのスタッフに提出してください。

3-1-2. アンケート結果

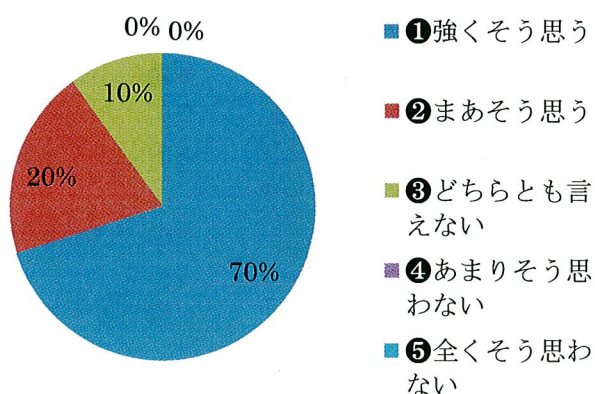
1-1. ワークショップへの参加動機は何ですか



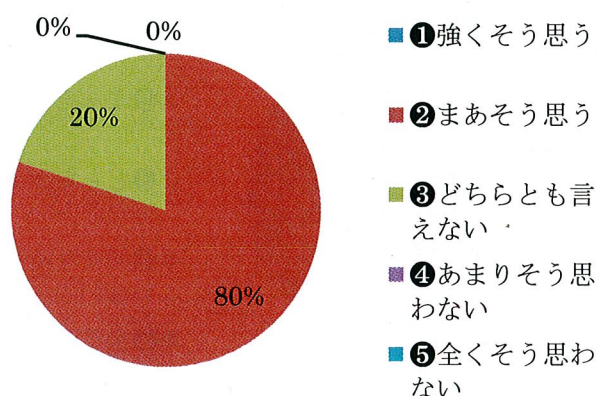
1-2. ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した



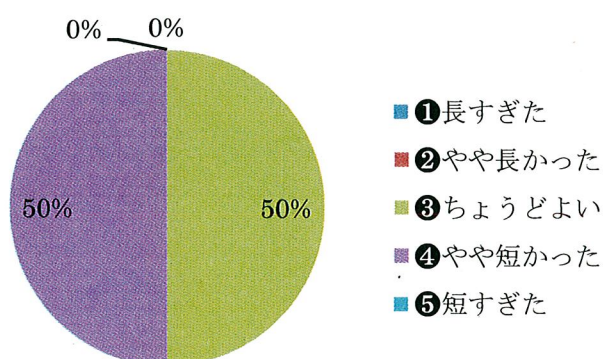
1-3. 本ワークショップは全体として満足であった。



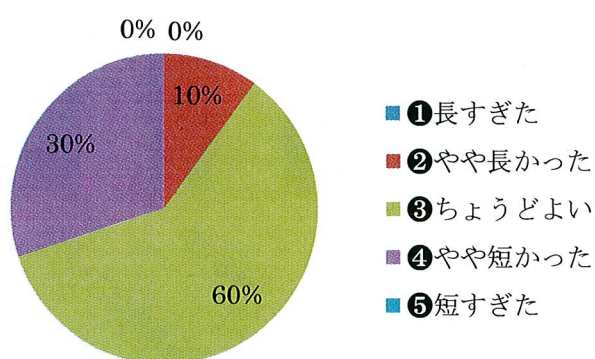
2-1. 開催時期は適切であった。



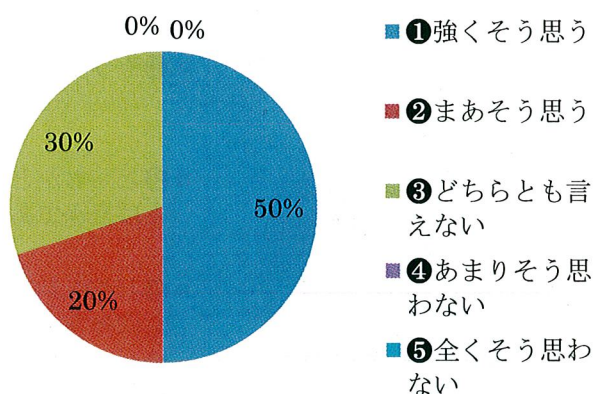
2-2. 期間（1泊2日）は適切であった。



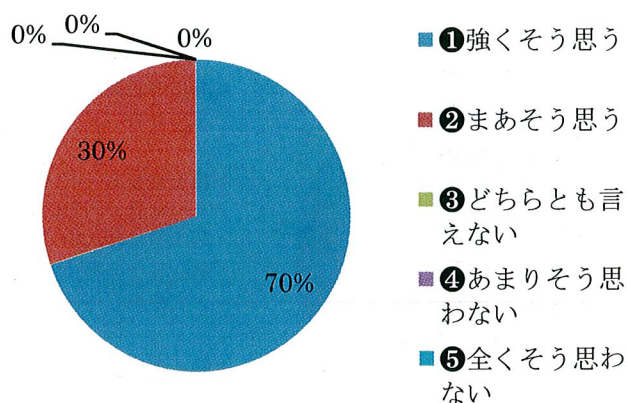
2-3. 講義の総時間数は適切であった。



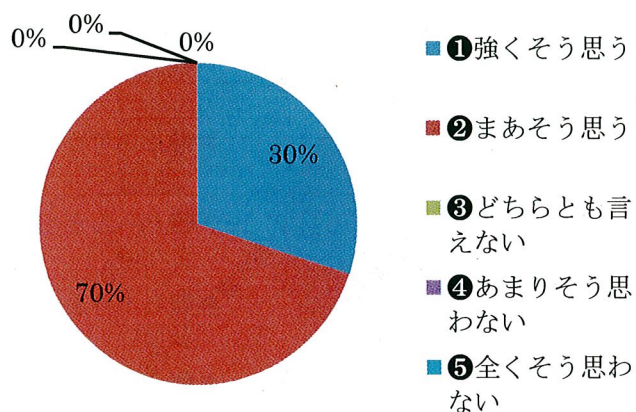
3-1.プログラムの目的・目標をよく理解できた。



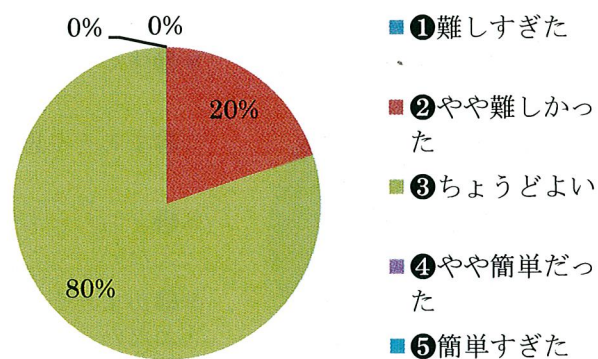
3-2.ワークショップの内容は自分に役立つものであった。



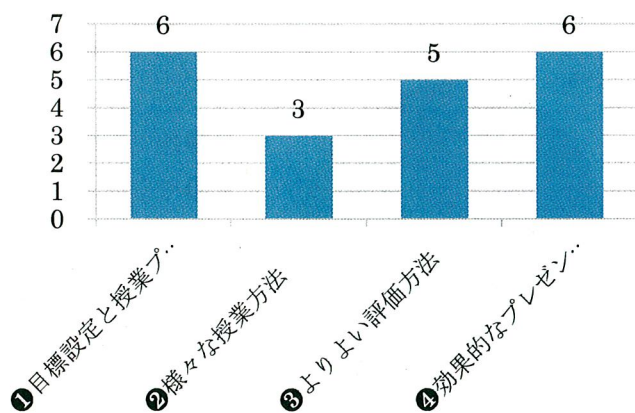
3-3.ワークショップは分かりやすい順序ですすめられていた。



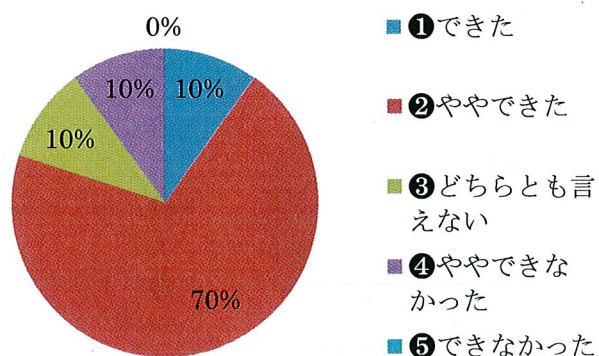
3-4. 講義内容のレベルは適切であった。



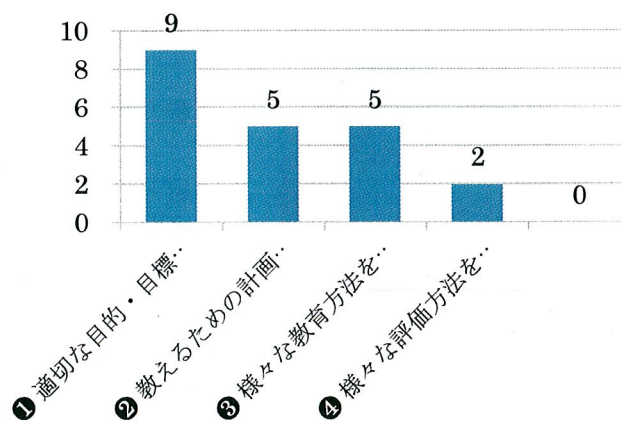
3-5. 講義の中で興味を持って取り組めたものは以下のうちどれですか。 <複数選択可>



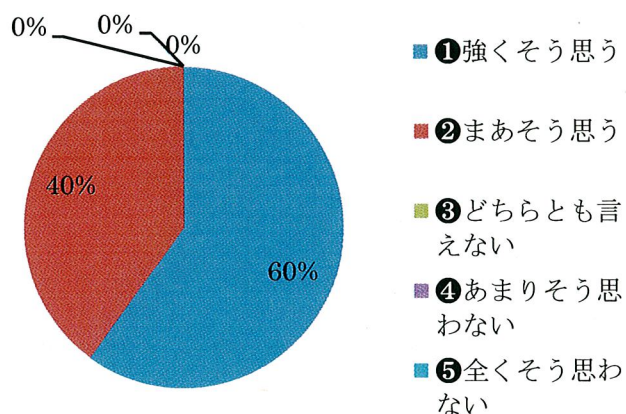
4-1. 受講期間中、常にモチベーションを高く維持できた。



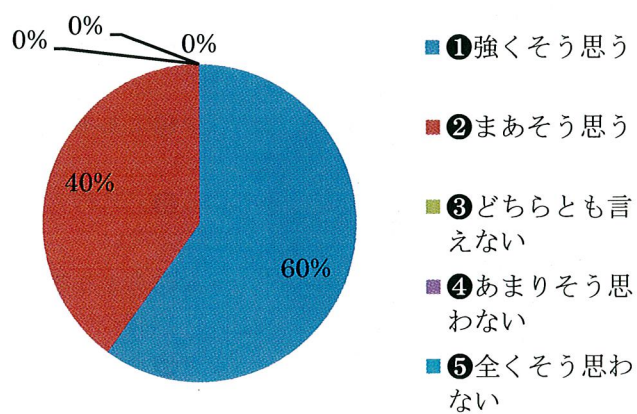
4-2. ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか。＜複数選択可＞



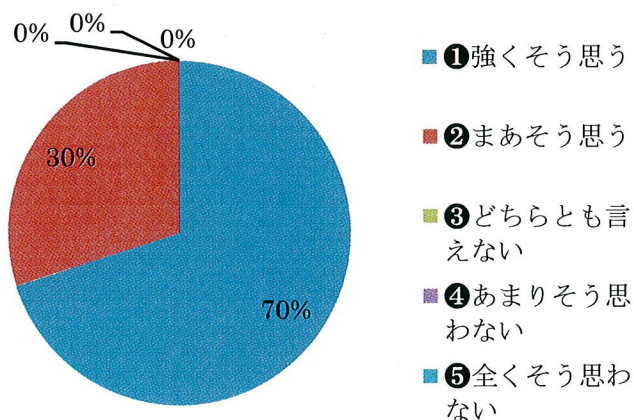
4-3. 受講による経験や知識を今後の大学生活や社会生活に活かすことができると思う。



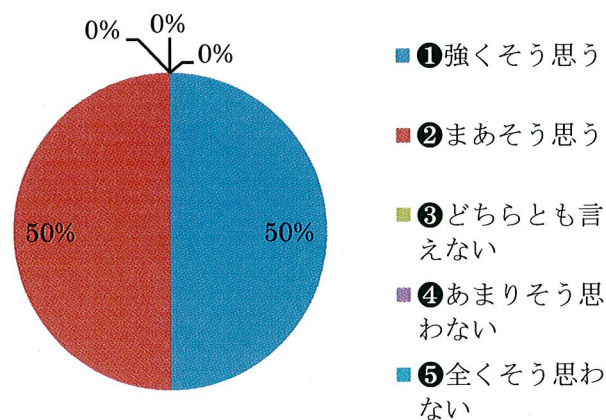
5-1. スタッフの指導・助言の方法は効果的であった。



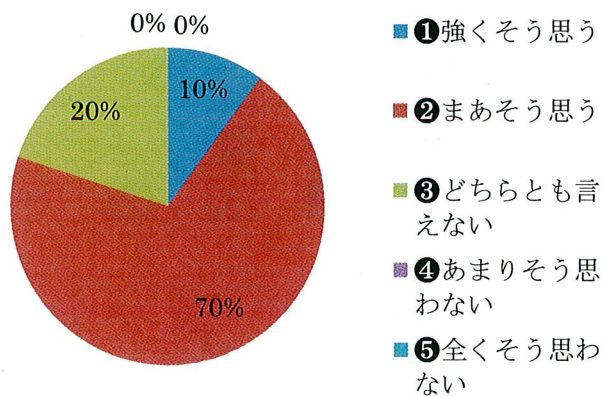
5-2. スタッフの専門知識や経験は有益であった。



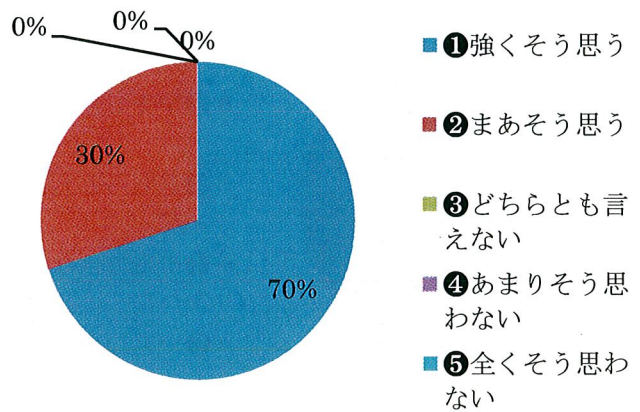
5-3. スタッフと受講生とのコミュニケーションはとれていた。



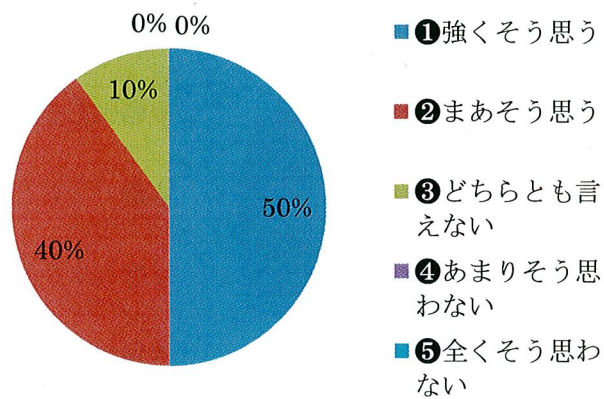
6-1. ワークショップ会場は快適な環境であった。



6-2. 学生，大学院生時代にインストラクションに関する知識・技能を学ぶことは重要である。



6-3. 本ワークショップの受講を後輩や友人に勧めたい。



自由記述

4-4. 学んだ知識や技能は具体的にどのような場面で活用できそうですか。

実験を行う際に被験者に対して実験目的、手順を分かりやすく説明を行うことができる
叱るコツ・褒めるコツは塾で使えそう
これから先、模擬授業を行ったり指導要領を書いたりする時に、活用できると思います。
ワークショップを行う際に、人の話をよく聞いて自分の意見を発言することが重要であるということは、どの場面でも活用できる。
後輩指導やバイト（家庭教師）の授業
インストラクションは様々な場面で役立つと思うし、実際、後輩指導などに適用できると思う。
今後も誰かに何かを教えるということは多々あると思うので、今回の経験を活かせられると思う。
会社で企画書を書く場面でプランの作成のスキルが活きてくると思うし、プレゼンテーションのスキル、ノウハウも活用できると思う。
TA, 授業, 就職活動, 会社
今後、講師のアシスタントとしてシラバスの作成のサポートを行う場面で活用できそうです。

4-5. 活用できそうにないのはなぜですか。

（該当者なし）

本ワークショップのよかった点、あなたのやる気を向上させた点、次回以降も継続して行うべき点を具体的に記述してください。

今回の受講生が10人だったけど、逆にみんなのことをよく知ることができたので良かった。
講義とグループワークの組み合わせがよかった。
学生参加型のグループ活動が多く学生のモチベーションを高く保てていたと思います。スタッフと学生の距離が近く、サポートもしっかりしていただけたので非常に助かりました。
参加10名程度が適切だと思う。参加者の名前と顔が一致できたので良かった。
講義とグループワークが口語だったので切り替えができて良かった。スタッフが多く質問しやすかった。また、多様な意見をいただいた。アイスブレイクが新鮮でよかった。
フレンドリーなスタッフのおかげで、非常に快適に学べました。
内容が充実していたと思う。私はもっと効果的に伝えられる計画や設計、実施について、詳しく知ることができた。また、それをどのように表現すればいいのか、実践を通して、また、コメントなどのフィードバックで自分の直すべき点が分かった。
授業プランの組み立て、プレゼン方法とか教えるためのスキルを学べてすごく良かった。スタッフの人も丁寧に教えてくれたので、とても良かったです。
全体を通してのグループワークは他人のことを考えながら1つの目標に向かっていく姿勢や、達成の仕方を深く考えさせられて、見直す良い機会となった。知らない人とグループワークをすることで、コミュニケーションにおいての自分の欠点に改めて気づかされた。プレゼンや企画の立て方も間違いに気づけたため。
最初のアイスブレイキングは本当に成果がとてもあり、驚かされました。する前と後では授業に対する姿勢も大きく変化があったと思います。興味がもともとあったからかは分かりませんが、グループワーク、講義の繰り返しによって、集中力も落ちにくく、率先して参加できました。プラス、他の生徒の授業に対する姿勢にも少なからず影響されました。今回、グループワークに重点を置いて学べたらと思い参加したので、1つ1つの講義だけでなく、全体として発見（欠点、課題、良い点）できることがとても多かったため、成長まではいかないかもしれませんが、すごくためになりました。
スタッフの対応からも学ぶことが多く、率先して班に話しかけてくれ、なおかつ、言いたいことを引き出してもらえる質問をしていただけた、とても助かりました。良かった点は本当にまだまだあります。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

シラバス作成の知識を備えているスタッフの方々に気軽に相談できることは、かなり早期問題解決につながりました。おかげで良いシラバスが作成できました。
進め方は、グループワークの間に必ず講義を入れており、シラバス作成の流れに沿っていました。

本ワークショップをさらに良くするために必要なこと、あなたのやる気を下げた点、次回以降は十分に検討した方が良い点を具体的に記述して下さい。

次回も行えるように受講生集めを頑張ってください

内容としては、大学教員を主眼にする人はあまりいないと思うので、シラバスというより、初等教育がよいと思う。教え方などのテクニックなどをメインにした方が、ニーズがありそう。交流会の後にも作業しなくてはならないのは配分がよくない。

交流会以外はずっと講義とグループ活動だったので、息抜きのレクリエーションなどを行うと学生もリフレッシュできて良いと思います。

授業を行った後の評価も大事だが、ワークショップを進めていくプロセスも重要だと思う。

教科書を使いながら講義を聴く機会が少なかった。ファイルの中のノートのスペースがあることについての説明が欲しかった。時間が短い。

受講者数が少なかったことが少しさびしかった

学習時間が短かった

時間の取り方がもう少し正確だとよかったかなと思います。

定員が30人でしたが、10人でも延長、時間がないことが時々あったので30人という定員はもう一度考えた方がよいと思います。逆に僕は3～4人班が3班ということがやりやすかったと思います。

受講者のモチベーションが違うことでかなりやりにくい時があった。それは各自の教育実践経験からも差がみられた。

改善案として、テーマ（教科書）は各グループによって違いを出す。作業はグループ内では同じ専門だが、個人作業が望ましい。チェックをかけるときは、グループメンバー、スタッフの方にかけてもらえば良いのではと考える。

ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップの開催について

日 時：平成22年2月27日（土）28日（日）

※時間については別途連絡

場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ

【オリエンテーション・TP作成作業等】

会議室（3階）

【個人ミーティング】

教育・学生支援機構ミーティングルーム（3階）等

主 催：高知大学

共 催：愛媛大学

目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行う。

メンター：加藤 由香里（東京農工大学大学教育センター准教授）

小林 直人（教育・学生支援機構教育企画室室長）

秦 敬治（教育・学生支援機構教育企画室副室長）

※その他のメンターは調整中。

取組名称：「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による大学の教育力向上

構成大学：愛媛大学、徳島大学、高知大学 愛媛県立医療技術大学、高知女子大学、高知工科大学、四国大学、
聖カタリナ大学、松山大学、松山東雲女子大学、今治明德短期大学、愛媛女子短期大学、
松山東雲短期大学、松山短期大学、高知学園短期大学、高知工業高等専門学校

FDセンター機能をもつ組織を有する国立大学(愛媛、徳島、高知＝「コア校」)の連携を核に、四国地区の16大学等がネットワーク事業を展開することにより、**域内のFD/SD事業の効率化、高度化、実質化**を行う。これにより、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、**教育の質の保証**を図る。(※ネットワークは、四国地区の全高等教育機関(34校)で構成。)

● 連携取組の内容・ポイント

人的資源の有効活用

- コア校を研究開発・情報収集の拠点
- **人的資源の集中化、ネットワーク化**
- 四国地区全体の**教育の質の保証を加速**

協働による効率化、高度化、実質化

- FD/SDプログラムの共有
- 研修講師の相互派遣やコンサルテーション
- ニーズに応じた体系的なFD/SDプログラムの共同開発
- 研修指導者(FDer:ファカルティ・デベロッパー)の養成
- 大学院生・ポスドク等向けインターンシップの実施

● 連携による実績・成果

- 授業デザインワークショップなどを実施(21年度は48講座を実施)
(これまで実施した36講座を構成大学の教職員等704名が利用)
- 上記のほか、集中的日程によるFD/SD研修を行うフォーラムも実施
(21年度は9月に4日間で27講座を実施 構成大学の教職員等425名が利用)
FDセンターや専任教員の配置が困難な小規模校も、負担なく、
質の高い豊富な研修プログラムを享受可能

◆ 研修参加者の94%が、利用した研修について有意義又は満足と回答

国立教育政策研究所
(高等教育研究部)

大学教育学会
大学行政管理学会

FD/SDプログラム等各種研究開発での協働



成果の情報発信、連携

全国他地区の
ネットワーク等



研修プログラムの共有

● 内外からの評価

- すでに実績をもつコア校がリードすることで活動の牽引体制としては有利に展開できる
- 学校種別、規模別等の課題の区分けと整理が必要
→ 今後、詳細な調査を実施し、加盟校のニーズに対応

〇〇大学の取組「・・・」

1取組について必ず半分で記載

■活動内容

・・・や・・・などを実施し、大学における・・・を改善していくことで、地域に貢献できる人材の養成を促進する。

目的と手段を加えて簡潔にわかりやすく

写真
(またはデータ)

■成果・評価

※大学の評価
※定量的データ
※学生の評価
※外部評価の結果
※参加している学生の分野別割合・人数
※代表取組担当者の具体的な経歴(簡潔に)

改革が進んでいることが証明できるようなデータを記載

■必要な経費

専任教員〇名
国内調査費
実習教材費
システム開発

〇百
〇百
〇百万円
〇百万円

具体的な使途(連携大学との調整のための旅費など)を記載してください(施設整備費、旅費、人件費、事業推進費の区分において主なものを複数記載)。

継続事業は()で前年度実績額を記載。

愛媛大学を代表校とする大学連携の取組 「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』 による大学の教育力向上」

■活動内容

四国地区の国公私立16大学等が連携し、FD/SD(教職員の能力開発研修等)の共同開発・実施等を行うことで、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出し、教育の質の保証を図る。



FD/SD研修プログラムの共有

■成果・評価

- 四国地区全体の教育の質の保証を加速
 - コア校(国立3大学)を中心にFD/SD研修を開発・実施
 - FD/SDプログラムの共有(21年度 76講座)
- ◆ 既に実施した63講座で 教職員等約1,000名以上が利用
 - ◆ 研修参加者の94%が、利用した研修について有意義又は満足と回答
 - ◆ FDセンターや専任教員の配置が困難な小規模校も、過度の負担なく、質の高い豊富な研修プログラムを享受可能
- 代表取組担当者 佐藤浩章 愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長。FD/SDの開発・実施及び学生の学習・生活支援の企画・実施等の中心的役割を担っている。

【内外の声】

- すでに実績をもつコア校がリードすることで、活動の牽引体制として有利に展開できる(外部評価委員)
- 組織を超えて議論や人脈づくりができた(研修参加者)
- 日々の業務ですぐ活用できる実践的内容を学べた(同上)

■必要な経費

専任スタッフ 3大学11名	36百万円(前年度実績 4百万円)
研修開発・実施経費	32百万円(前年度実績 34百万円)
遠隔講義システム整備	※整備済(前年度実績 26百万円)

【第3ワーキンググループ】

(文部科学省)

- 公立学校施設整備事業
- 家庭教育支援基盤形成事業
- 放課後子ども教室推進事業
- 学校 ICT 活用推進事業
- キャリア教育総合推進プラン
- 中学校におけるキャリア教育の指導内容の充実
- 専門的な職業系人材の育成推進事業
- キャリア教育・職業教育の推進
- 義務教育費国庫負担金
- 高校奨学金（地方向け交付金）
- 教員免許制度の抜本改革
- 免許状更新講習開設事業費等補助
- 全国学力・学習状況調査の実施
- 道徳教育総合支援事業
- 国立大学法人運営費交付金
- 大学教育・学生支援推進事業
- グローバル COE プログラム
- グローバル 30
- 組織的な大学院教育改革推進プログラム
- 大学教育充実のための戦略的大学支援プログラム
- 大学等奨学金
- 科学技術振興調整費（革新的技術推進費、先端融合領域イノベーション創出拠点の形成）
- 科学技術振興調整費（若手研究者養成システム改革）
- 科学研究費補助金（若手研究（S）～若手研究（B）、特別研究員奨励費）
- 特別研究員事業（（独）日本学術振興会）
- 女性研究者支援（科学技術振興調整費（女性研究者支援システム改革））
- 世界トップレベル研究拠点（WPI）プログラム
- 学術国際交流事業（（独）日本学術振興会）
- 知的クラスター創成事業
- 都市エリア産学官連携促進事業
- 産学官連携による地域イノベーションクラスター創成事業
- 産学官連携戦略展開事業
- 地域イノベーション創出総合支援事業（（独）科学技術振興機構）
- 理科支援員等配置事業（（独）科学技術振興機構）
- 科学未来館（（財）科学未来広報財団への運営委託を含む。）（（独）科学技術振興機構）
- 科学研究費補助金（特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究（S））
- 戦略的創造研究推進事業（（独）科学技術振興機構）
- 戦略的イノベーション創出事業（（独）科学技術振興機構）
- 先端的低炭素化技術開発（（独）科学技術振興機構）
- 戦略的基礎科学研究強化プログラム（（独）科学技術振興機構）
- 革新的タンパク質・細胞解析研究イニシアティブ（ターゲットタンパク研究プログラム）

施策：事業シート（概要説明書）									
担当府省名	文部科学省		予算事業名	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム					
担当局庁名	高等教育局		上位政策事業名	大学などにおける教育研究の質の向上		作成責任者			
担当課・室名	大学振興課大学改革推進室		事業開始年度	平成20年度		大学振興課長 高橋孝夫			
関係法令・関係省庁等（関係省庁等）	-		関係する通知・訓令等	教育振興基本計画（平成20年7月1日閣議決定） 「学士課程教育の構築に向けて」 （平成20年12月24日中央教育審議会答申） 「中長期的な大学教育の在り方に関する第一次報告」 （平成21年6月15日中央教育審議会大学分科会）					
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託等（委託先等：） ☒ 補助金（直接・間接）（補助先：国公立大学等の設置者 実施主体：国公立大学） ☐ 貸付（貸付先：） ☐ その他（）								
支出内容	職員数 （内：08/役員数）	/	常勤役員数	/	非常勤役員数	/	監事等	/	
支出内容	職員数	-	内：官庁08	-	役員報酬総額	-	官庁08役員報酬総額	-	
支出内容	その他	-	内訳	-	今後の活用計画	-			
目的 （何のために）	個々の大学の限られた教育研究資源の重点化及び連携による強みの結集を行うことで、大学全体としての教育力の充実を図る。 → 地域における人材育成、地域の生涯学習の拠点、地域課題対応等の多様な高等教育需要に応える。								
対象 （何/何と）	国公立の大学・短期大学・高等専門学校が連携して行う取組								
事業内容 （何を/何を）	○公募制により、国公立大学を通じて競争的に選定 ○民間人を含む専門家・有識者による第三者委員会が公正・公平に審査 ○選定された大学は、国の財政支援期間終了後その成果を基に取組を継続することが条件 ○大学教育充実のための大学間の戦略的な連携取組や、地域社会における喫緊の課題に対応した大学連合体による人材育成の取組等を支援 ○連携する大学等間で概ね10年程度を見通した将来目標や連携効果を含めた計画を策定させ、将来目標、取組の有効性を確認し、実現可能性の高い取組を選定 ○地域と一体となった人材育成を推進するため、大学等以外に地方自治体及び経済団体等と積極的な連携を図ることとしている。								
コスト	平成22年度概算要求額		人件費						
	事業費	5,000 百万円	}	職員構成	概算人件費 （平均給与×従事職員数）		従事職員数		
	人件費	6 百万円		担当正職員	5,373 千円	0.75	人		
施設費	5,006 百万円	臨時職員他	855 千円	0.5	人				
シテマの目的の （何/何）	年度	総額	地方公共団体の裏負担がある場合、概算の総額						
	H19(決算額)	-	-						
	H19(決算上の不用額)	-	-						
	H20(決算見込額)	3,000	-						
	H21(当初予算)	6,000	-						
	H21(補正予算)	0	-						
	H22概算要求	5,000	-						
平成22年度予算内訳（補助金の場合）	(項) 高等教育振興費 (目) 大学改革推進等補助金 5,000,000千円(定額補助) 平成21年度選定分 13件 * 85,000千円 = 1,105,000千円 12件 * 85,000千円 = 1,020,000千円 10件 * 42,500千円 = 425,000千円 平成20年度選定分 10件 * 85,000千円 = 850,000千円 10件 * 80,000千円 = 800,000千円 20件 * 40,000千円 = 800,000千円 (内訳) ・連携校で同時に授業を実施するための遠隔授業システム、eラーニングシステムなどの設備備品費 ・連携大学等とのカリキュラム作成などの協議のための旅費 ・連携事業の総括や自治体や企業との連絡調整を行うコーディネータ等の人件費 ・講座用ソフトウェア、ネットワーク関係消耗品等の購入、サテライトオフィス借料等 土地建物借料、連携プログラム用HPの作成等の雑役務費など								

施策・事業シート（要説明書）					
担当府省名	文部科学省	事業名	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム		
担当府局名	高等教育局	位置付事業	大学などにおける教育研究の質の向上	作成責任者	
担当課・室名	大学振興課大学改革推進室	事業開始年度	平成20年度	大学振興課長 高岡章夫	
事業/制度の必要性	○地方における大学は、その地域における「知の拠点」としての役割だけでなく、地域貢献や多様な社会的ニーズを踏まえた人材育成を担う観点からも需要が高く、かつ極めて重要。 ○本プログラムを通じて、設置形態を超えた大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図る。 ○本プログラムは各地域(地方自治体や産業界)からの評価や期待の声が大きい。 ○平成22年度においては、新規採択は行わず、継続事業のみの支援を行う予定。現在、採択された各大学では、3年間の継続支援を前提としてプログラムを推進。 ○本プログラムを推進することは、民主党政権INDEX2009に盛り込まれた「社会に開かれ、社会と連携・協働する大学」を目指し、「時代が求める人づくり・知恵づくり」の拠点として大学改革を進めることにも資する。				
地方府、自治体等における取組状況	—				
他府省、自治体、民間等との連携・協働の状況	共同カリキュラム開発といった大学間の連携などの活動を支援。また、87%の取組において、大学と地方自治体・企業・地域社会等が連携。				
活動実績	【活動指標名】/ 年度実績・評価	単位	H18年度	H19年度	H20年度
	戦略的大学連携支援プログラム採択件数	件	—	—	54
達成率		%	—	—	100
成果/目標の達成状況（現状の把握及び今後の取組の方向性について、定量的・定性的に示す）	①全国での大学コンソーシアム体の創設と発展 (H19=40団体、H20=43団体、H21=46団体（全国大学コンソーシアム協議会加盟団体数）) ②連携大学間相互の評価活動など教育活動の質の保証を図る取組が拡大 【単位互換】H19：30大学、79人 → H20：154大学、2,608人 【共通アットラム】H19：107大学、1,880人 → H21：184大学、2,938人 【施設の相互利用】H19：5大学 → H21：44大学 ③大学、自治体、産業界が一体となった人材育成の連携取組が展開 例：北九州学術研究都市連携大学院（北九州地域の3大学・北九州市・自動車産業界が連携協力） ※平成20年度開始事業。採択から1年余りしか経過していないにもかかわらず、着実な成果を上げている。				
成果実績（成果指標の目標達成状況）	【成果指標名】/ 年度実績・評価	単位	H18年度	H19年度	H20年度
	全国での大学コンソーシアム体の創設と発展	件	—	40	43
	大学間相互の質保証の取組が全国の大学の半数程度で実施	校	—	—	262
	地域自治体等と連携した取組数	%	—	—	87%
	地域の学生、住民や自治体等の大学に対する満足度を向上	件	—	—	(未調査)
事業/制度の自己評価（各府省、自治体等の取組の状況、効果等）	○全国の各地域で大学間の積極的な連携が展開中であり、概ね順調に進んでいると認識。 ○既に実施されている連携の取組について、ヒアリングや実地調査を行うことで進捗状況を把握するとともに、支援期間終了後、円滑に移行できるかの検証を行い、地域や学生等のニーズを踏まえて必要な見直しを行う。				
出資・助成（国・地方自治体の取組）	—				
その他（関係機関との連携等）	平成20年度 本プログラムの創設 平成21年度 質保証の取組など、前年度と異なる観点から公募・選定 なお、平成22年度概算要求においては全体で10億円を減額して要求している。 平成22年度の配分方針については、各取組の進捗状況を確認しながら検討していく。				

大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムにおける採択前後の成果指標の推移

◎全国大学コンソーシアムの加盟状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
加盟団体数	40	43	46
加盟大学数	675	720	736

◎連携による取組の実施状況(平成19~21年10月末)

大学間での連携による取組については、本事業の実施に伴い、順調に増加してきている。

①単位互換の実施

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
実施大学数	30	125	154
受講者数(人)	79	1,806	2,608

②FD・SD等能力開発セミナーの共同開催

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
実施回数	32	91	265
参加者数(人)	81	3,683	5,793

③企業との共同研究

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
共同研究(件)	0	31	704

④地域公開講座の開催

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
実施回数	0	263	317
参加者数(人)	0	20,135	24,258

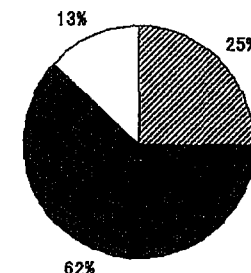
⑤共通プログラムの実施

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
実施大学数	0	107	184
受講者数(人)	0	1,880	2,938

⑥施設の相互利用

	平成19年度	平成20年度	平成21年10月末
利用の有無	5	38	44

◎地方自治体等との連携状況



選定された取組全体の87% (80/92校) で連携

■ 地方自治体等及び大学コンソーシアムとの連携 ■ 地方自治体等との連携 □ なし

※平成21年度は途中段階(10月末現在)であり、さらに増加することが見込まれる。

福岡工業大学外3大学の取組の取組 「国公立大コンソーシアム・福岡 一地域から アジアへ、環境・エネルギー問題に挑む」

○福岡県や九州経済産業局等の協力の下、4大学によるコンソーシアムを形成。教育連携、研究連携、地域貢献、資源共有(ガバナンス)の各事業を推進。

【単位互換授業】

○遠隔講義システムを用いて、参加大学がそれぞれ強みのある分野の知見を活用する単位互換授業、6つのテーマからなる共同研究、地域貢献事業としての市民公開講座等を展開し、専門人材の養成に貢献。



【内外の声】

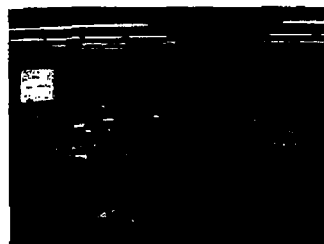
○学生、企業アンケート(H21.2~3実施)によると、従業員の技術研修機関、共同研究・委託研究対象としての期待あり。

	前期	後期
科目数	12	13
授業形式	⑨4	⑩2
	遠隔講義、スクーリング	

北海道教育大学 外5校の取組

「高等教育機関連携による『キャンパス都市函館』構想」

○分野の異なる6つの機関が連携し、それぞれの強みを生かして地域性や現代に着目し、「函館地域と現代」といった特徴あるカリキュラムを開発・提供し、質の高い学生の要請を目指す。



【特色あるカリキュラム開発】

・他校生との交流が学習意欲を刺激する。【交流授業の風景】
豊富な講師陣による講義の受講により視野が広がる。

【内外の声】

○函館市と市内高等教育機関が連携し、特徴あるカリキュラムを開発することにより、質の高い学生を養成、大学等の知を活用した地域産業の発展など、市のまちづくりに大きく資することを期待。(函館市長)

愛媛大学 外15校の取組 「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』 による大学の教育力向上」

○教育研究指導能力の高い教員を養成するため、四国地区の国公立16大学等が連携し、FD/SD(教職員の能力開発研修等)を共同で開発・実施。

○FD/SDプログラムの共有(21年度 76講座)

○既に実施した63講座で教職員等約1,000名以上が利用



FD/SD研修プログラムの共有

【内外の声】

○研修参加者の94%が、利用した研修について有意義又は満足と回答

○すでに実績をもつコア校がリードすることで、活動の牽引体制として有利に展開できる(外部評価委員)

北九州市立大学 外2大学の取組

「連携大学院カーエレクトロニクスコース」

○北部九州地域の国公立の理工系大学院が地元自治体や企業の協力の下、連携大学院を構築。

○連携大学の強みを生かした教育内容を提供するとともに、第一線で活躍するエンジニアを招き先端技術を学ぶ。

○連携大学の共通プログラムの在籍者数は平成21年10月現在27名。



【エンジン実習の風景】

【内外の声】

○カーエレクトロニクス分野に加え機械工学や人間工学など幅広い知識が学べることや第一線のエンジニアから実践的な講義が受けられる(学生)。

○自動車産業や半導体産業が集積する北部九州においては、開発や技術革新を主導する人材が渴望されており、本コースに大きく期待。(企業担当者)

行政刷新会議「事業仕分け」評決結果

11月25日(水) 第7日目

【第3WG】

番号	項目名	WG結論	備考
3-51	国立大学運営費交付金(特別教育研究経費を除く)	国立大学のあり方を含めて見直しを行う	
	国立大学運営費交付金(特別教育研究経費)	予算要求の縮減	
3-52	大学の先端的取り組み(グローバルCOEプログラム、組織的な大学院教育改革推進)	予算要求の縮減(1/3程度縮減)	
	大学の先端的取り組み(グローバル3D、大学院教育のための戦略的大学連携、大学教育・学生支援)	予算要求の縮減	
3-53	大学等奨学金	見直しを行う	(回収の強化、給付金型奨学金、経済状況への柔軟な対応、独立行政法人のあり方を中心に)
	高等学校等奨学金事業交付金	見直しを行う	(高校実質無償化との関係を整理)
3-54	全国学力・体力テスト	予算要求の大幅縮減	(抽出対象の絞込み)
3-55	義務教育費国庫負担金	見直しを行う	(教員の調査・報告義務の削減、国と地方のあり方の抜本的整理)
3-37	(独)日本原子力研究開発機構②(高レベル放射性廃棄物処分技術開発(深地層処分))	来年度の予算計上の見送りを視野に、経産省の全体計画を含めて検討	
	(独)日本原子力研究開発機構②(国際熱核融合実験炉研究開発(ITERサテライト・トカマク計画))	予算要求通り	
3-56	公立学校施設整備事業	予算要求の縮減	(学校の耐震化事業に特化)
3-57	スポーツ予算(民間スポーツ振興費等補助金)	予算要求の縮減	

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-52 大学の先端的取り組み

- (1) グローバルCOEプログラム
- (2) 組織的な大学院教育改革推進プログラム
- (3) 国際化拠点整備事業(グローバル30)
- (4) 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
- (5) 大学教育・学生支援推進事業

(グローバルCOEプログラム、組織的な大学院教育改革推進プログラム)

- グローバルCOEは研究ではなく、教育であるなら大学が当然にやるべきこと。組織的な大学院教育改革は廃止。
- 改革のスタートアップ経費という位置づけだが、なぜスタートアップに特別な金があるのかわからない。専攻設置が狙いなら専攻設置量を指標にすべき。目的と手段が合っていないか見るべき。
- 検証に着手したというが、もともとどのような指標で検証するのか。本来スタート前に何で評価するか。指標を先に明らかにするのが常識。院のレベルアップはすべきだが、手段が不明瞭。再構築すべき。
- 該当分を交付金化。
- 対象の絞込みをより厳格化しモデル事業として取り組み、成功事例として水平展開する。取り組み継続(条件)については、実績の詳しい検証を。
- 事業目的に問題はないと思われる。経費縮減で半額。学外を含む大学運営協議会の設置は如何か。
- キャッチコピー的な事業名をやめて、ガイドラインを明示したモデル事業として数を絞り、検証してほしい。半額の経費は基盤的経費に回すべき(トータル予算の削減はないように)
- 事業名と目的とする内容をシンプルに分かりやすく説明され、進捗に応じて弾力的な対応が可能となる仕組みに組み替えるべき。人材育成。グローバルCOE、組織的な大学院教育改革プログラムの事業区分せずに、一本化して効率化を目指すべき。
- 基本的に各大学が独自に取り組みをすべきところであり、特に教育改革プログラムについては廃止すべきと思う。COEについては他の競争的資金と統合すべき。

行政刷新会議「事業仕分け」

- 21世紀COEの成果検証が生かされているのか。140拠点は多くないか。RA・ポスドクの雇用対策と見られてしまうのは、成果・評価・検証について説明不足である。縮減もやむなし。
- グローバルCOEの成果評価に博士取得者の就職率向上を重点に置くべきである。
- 博士課程にある学生らの支援のあり方等は、長期的目標の立て直し、その目標に向けたロードマップを政府として作成すべき。独法化した後の運営費交付金、競争的資金のあり方を今一度政府において見直し、検討すべき。
- 国立大学法人化が本当に良かったのかどうかの検証にあわせて見直しが必要。現状では要求通り。
- 継続性の確保、質の変革(評価の厳格化)。

(国際化拠点整備事業(グローバル30)、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム、大学教育・学生支援推進事業)

- そもそも大学本務であり、経営経費の補填と見られても否定できない。
- 該当金額を交付金化。雇用対策は別予算で手当てすべき。
- 大学教育・学生支援推進事業は目的になかった内容とは思えない。省庁横断的に内閣一丸となって大学生だけでなく高校生含め集中対応すべき。(農業組合—職人組合(地場産業等)等も就職先。分野拡大を。起業もあり。) グローバル30、大学教育充実のための戦略的支援プログラムは各大学の自主性。
- グローバル30、大学教育充実のための戦略的大学支援プログラムは全面的に見直すべき。コンセプト自体がずれている。クオリティーを上げるのは大学の本務である。大学教育充実のための戦略的大学支援プログラムはマッチングやアクション(就活)に直結するものに限定すべき。直結しないもの(データベース・調査)は民間にいくらでもある。中小・ベンチャーで人材不足のところとのマッチングができるように考えるべき。学生の就職に対する視野を広げるアクションをとるべき。
- 大学の教育内容・競争的資金の抜本的見直しを政府において行うべき。学生の就職支援活動は、他省庁とより連携して効果的に行う施策の組み直しが必要。
- 効果があるかどうか分からない。それが実証されるまで計上は見送り。
- 戦略性を持ったモデル事業に組みなおして、基本的な大学のシステムとしてガイドラインを作るべき。削減した予算は、基盤的教育経費に回すべき。
- 学外を含む大学運営協議会の設置は如何か。
- 重要なテーマも含まれているが、手段の精査と対象校の絞りこみを。
- 行うべき事業ではあるが、その実施方法が有効とは思えないところが多いので、検討してほしい。
- グローバル30による国際化拠点が世界中から引っ張りだこになる人材育成ではない以上、20年間継続して成果を上げてこなかった国際化事業と差別化できないので、質の向上を明確に樹立するまで中止する。
- グローバル30・38億→半分以下でよい。大学教育(戦略的プログラム)50億・大学教育(学生

就職支援)→本来大学が自分すべきこと。

- 研究とのトレードオフの考慮。地域活性化に役立つ地方大学での拡充。
- 英語の講義を用意することが国際化となるのか？国際化の理念や目的が分からない。国立大学法人化が本当に良かったのかどうかの検証にあわせて見直しが必要。現状では予算要求通り。

WGの評価結果

グローバルCOEプログラム

組織的な大学院教育改革推進プログラム

予算要求の縮減(1/3 程度縮減)

(廃止3名 予算計上見送り1名 予算要求の縮減8名(半額3名、1/3縮減3名、その他2名(2割縮減1名、9割縮減1名)、予算要求通り2名)

国際化拠点整備事業(グローバル30)

大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

大学教育・学生支援推進事業

予算要求の縮減

(廃止4名 予算計上見送り2名 予算要求の縮減6名(半額2名、1/3縮減1名、その他3名(2割縮減1名、7割縮減1名、9割縮減1名)、予算要求通り2名)

とりまとめコメント

グローバルCOEプログラム及び組織的な大学院教育改革推進プログラムについては、予算要求通り2名、廃止3名、来年度の予算計上見送り1名、予算要求の縮減8名であり、その内訳は、半額3名、1/3程度を縮減3名、その他2名(2割縮減1名、9割縮減(グローバルCOEプログラムの廃止)1名であり、散らばりがあるが、WGとしては、1/3程度の予算要求の縮減と結論する。グローバルCOEプログラムは廃止すべきとの指摘

行政刷新会議「事業仕分け」

や、対象が広すぎるとの指摘が複数あり、より絞り込んだ形で企画をしていただきたい。

国際化拠点整備事業(グローバル30)、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム及び大学教育・学生支援推進事業については、廃止4名、予算計上見送り2名、予算要求通り2名、予算要求の縮減6名(半額2名、1/3 縮減1名、その他 3名)であり、かなりばらつきが大きい、WGとしては、予算要求の縮減と結論する。そもそも大学の本務としてやるべきだという意見、結果・効果が不明だという意見、学生の雇用に関する課題は重要だという指摘も複数あった。

平成21年度第2回SPOD愛媛県内加盟校会議概要（案）

日 時：平成21年11月20日（金）13：30～15：30

場 所：愛媛大学本部第1会議室

出席者：別紙参加者名簿参照

議題等：

1. SPOD 加盟校の追加等について

愛媛大学西尾教育企画課長から資料1に基づき、10月1日付けで聖カタリナ大学短期大学部が新たに加盟したこと及び高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校が高度化再編し、香川高等専門学校になったことにより、四国地区の全ての高等教育機関（34機関）が加盟することになったとの説明があった。また、聖カタリナ大学短期大学部矢野教務課長から挨拶をいただいた。

2. SPODフォーラム2009について

愛媛大学西尾教育企画課長から、資料2-1～2に基づき、SPODフォーラムに全体（遠隔講義システム受講者及び参加学生含む。）で425名の参加があり、事後アンケート調査でも高評価をいただいたとの説明があった。また、資料2-3～6に基づき、SPODフォーラム時に同時開催された総会について愛媛大学西尾教育企画課長から、FD分科会について愛媛大学小林教授から、SD分科会について愛媛大学米澤人事課長からそれぞれ説明があった。引き続き、資料2-7に基づき愛媛大学小林教授から高知大学、徳島大学及び愛媛大学が編集している紀要に各加盟校もFD／SDに関する論文を投稿することが可能になったことを説明した後、投稿の呼びかけがあった。

なお、各加盟校からSPODフォーラム2009について、以下のような要望があった。

- ・内容について早めに周知してほしい（学内への周知期間が短かった）。
→早い時期に周知できるように準備を進めていきたい。
- ・日程について考慮いただきたい（休日に開催する等）。
- ・高専が取り入れられるプログラムが少なかった。
→意見を参考にしながら、日程やプログラムについては、今後検討していく。

3. 四国地区大学教職員能力開発ネットワークのホームページ掲載資料の利用に関するガイドラインについて

愛媛大学西尾教育企画課長から、資料3に基づきネットワークコア運営協議会で決定された当該ガイドラインについて説明があった。また、このガイドラインに基づき、現在講師にSPODフォーラム関係資料の掲載について確認中のため、掲載時期は12月の早い時期を予定していること、及び加盟校が利用しやすいように加盟校専用ページにも掲載することについても説明があった。

4. 平成21年度 of 取組状況と今後のスケジュールについて

(1) 新任教員研修プログラムのための基本枠組みについて

愛媛大学小林教授から資料4-1に基づき新任教員研修プログラムのための基本枠組みについて説明があった。また、新任教員以外も参加は可能なことを伝えた上、次年度以降の新任教員研修への参加の呼びかけを行った。

(2) ファカルティ・ディベロッパー養成講座について

愛媛大学小林教授から4-2①②に基づき、次年度以降の研修の実施方法等について現在検討中であるとの説明があった。また、同学部等の教職員が複数で参加したほうが効果的であることについても説明があった。

(3) 愛媛大学における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業に係る研修生の受入要項について

愛媛大学西尾教育企画課長から4-3に基づき要項及び各様式について、愛媛大学米澤人事課長から研修生の趣旨及び実施上の留意点について、説明があった。

(4) SPODにおけるSDの定義について

愛媛大学米澤人事課長から、資料4-4に基づきSPODで定めたSDの定義について説明があった。

(5) 平成20年度SPOD事業評価委員会委員からの指摘事項に対する改善状況について

愛媛大学西尾教育企画課長から資料4-5に基づき平成20年度SPOD事業評価委員会委員からの指摘事項に対する改善状況について説明があった。また、FD部門について愛媛大学小林教授から、SD部門について愛媛大学米澤人事課長から、それぞれ説明があった。

(6) 今後のスケジュールと検討課題について

愛媛大学西尾教育企画課長から、資料4-6①～③に基づき、SPOD事業に係る今後のスケジュールと検討課題について説明があった。

5. SPOD事業における学内実施体制について

愛媛大学西尾教育企画課長から資料5に基づき、愛媛大学の学内実施体制について説明後、参加した各加盟校に学内実施体制について、それぞれ説明をいただいた。

6. SPOD事業に関する意見交換

各加盟校からSPOD事業について以下のような要望、意見があった。

- ・教職員の実績とするため、SPODの研修等に参加した時には、修了証を発行してほしい。

→発行している研修はあるが、SPOD フォーラムのプログラムについては、内容的に発行することが適切であるか等の問題もある。今後の検討課題としたい。

- ・短大・高専は9月に入ると教員は学生の実習や授業があるため、SPOD フォーラムへの参加が難しい。

→講師を派遣することも可能なので、ご検討いただきたい。

- ・SPOD フォーラムに連日参加することは難しいので、連続した日程にしないことも検討してほしい。

- ・講師の派遣をお願いしたい（複数校からの要望あり）。

→できる限り要望に添えるよう対応している。なお、講師依頼の実績を集計しているので SPOD 関係で講師を派遣した場合は、SPOD 事務局にも連絡をしてほしい。

- ・授業公開についてご教示いただきたい。

→ SPOD フォーラムでも同様のプログラムがあった。ノウハウはあるので、講師を派遣することは可能。

- ・ガイドブックの部数を増やしてほしい。

- ・学内研修を組み立てるためにも、各加盟校がどのような研修を行っているかを知りたい。

→上記2件は、研修プログラムガイド2010で対応する。

- ・高専では、教員が学生対応や JABEE 審査等のため、研修参加の時間を取りづらい。

- ・高専に対応したプログラムが少ない。

→総会でも高専からプログラムについて要望があった。今後検討すべき事項と考える。

(以 上)

職員交流研修確認書

学校法人松山大学（以下「松山大学」という。）と国立大学法人愛媛大学（以下「愛媛大学」という。）とは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education：略称SPOD）の事業の一環として、それぞれの大学に所属する事務職員（以下「職員」という。）を相互に受け入れ、研修（以下「職員交流研修」という。）を実施することとし、その取扱いについて、次のとおり確認する。

（目的）

第1条 職員交流研修は、職員が設置形態の異なる高等教育機関において、業務の実施方法や大学運営の手法などを学ぶことにより、松山大学と愛媛大学が双方の組織の活性化と人材育成を行うことを目的とする

（期間）

第2条 職員交流研修期間は、1年以内とし、研修のカリキュラムの内容に応じて、両大学において協議の上決定する。

（交流職員）

第3条 両大学は、職員交流研修の内容を協議のうえ、職員交流研修に参加させる職員（以下「交流職員」という。）を選考し決定する。

2 松山大学理事長及び愛媛大学長は、職員交流研修の開始に当たって、あらかじめ交流職員に対し、職員交流研修期間中の労働条件等について承諾を得なければならない。

（職員交流研修のカリキュラム）

第4条 職員交流研修のカリキュラムは、あらかじめ、両大学で協議の上、決定し、交流職員に提示しなければならない。

（職員交流研修の実施状況の把握方法）

第5条 交流職員は、職員交流研修修了後、研修の実施状況等について、所属する大学長に報告しなければならない。

（給与、出張旅費等の負担）

第6条 職員交流研修期間中の交流職員の給与及び出張旅費等は、それぞれ交流職員の所属する大学が支給するものとする。ただし、出張旅費等については、受入大学の業務である場合は、受入大学が負担するものとする。

（服務）

第7条 交流職員は、所属する大学の職員として、服務上の規制を負っているため、受入大学はこれに抵触するような事態が生じることのないよう、必要な配慮を行うものとする。

（職員交流研修期間中及び通勤による災害）

第8条 交流職員の職員交流研修期間中の災害及び通勤による災害については、所属大学が補償を行うものとする。

（職員交流研修態勢）

第9条 交流職員は、職員交流研修期間中、受入大学の就業規則を遵守するとともに、受入大学のカリキュラムの遂行に当たっては、受入大学における指導者の指導、監督、助言等に従うものとする。

（機密保持義務）

第10条 交流職員は、職員交流研修期間中に知り得た受入大学の機密を、一切漏らしてはならない。

（修了証書の交付）

第11条 受入大学は、職員交流研修終了後、交流職員に対し修了証書を交付するものとする。

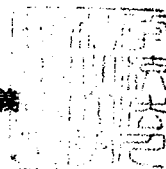
（その他）

第12条 この確認書に定めのない事項及びこの確認書に疑義が生じた場合には、両大学が協議して定めるものとする。

平成21年11月16日

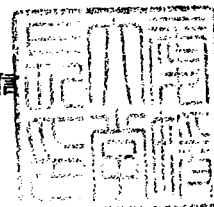
学校法人松山大学

理事長 森本 三義



国立大学法人愛媛大学

学 長 柳澤 康信



2009/11/10

平成21年度愛媛大学SPOD職員交流プログラム（案）

部局名： 教育学生支援部

1. 人事交流プログラム

(1) 受入期間：平成21年11月30日～12月11日の10日間（土、日曜除く）

(2) 勤務時間：シフト勤務（A8:00-11:30 12:30-16:45、B8:30-12:00 13:00-17:15、C9:15-12:30 13:30-18:00）とする。

(3) 配属される係等の名称：教育支援課共通教育チーム

(4) スケジュール

人事交流日程 (月/日・曜日)	シフト 勤務	人事交流業務内容
1日目(11/30・月)	B	8:30 受付、オリエンテーション 9:00 受入式 9:15 城北キャンパス見学（共通教育関連施設中心に） 関連部署への挨拶回り 13:00 教育学生支援業務概要、共通教育センター業務等の説明
2日目(12/1・火)	A	9:00-16:30 教育学生支援実務研修受講
3日目(12/2・水)	B	窓口対応及び通常業務、ミーティング（1週目） 13:00-17:15 教育学生支援実務研修受講
4日目(12/3・木)	C	窓口対応及び通常業務、GTECテスト
5日目(12/4・金)	A	（休暇）
6日目(12/7・月)	B	窓口対応及び通常業務、ミーティング（2週目）
7日目(12/8・火)	C	窓口対応及び通常業務
8日目(12/9・水)	A	窓口対応及び通常業務
9日目(12/10・木)	B	窓口対応及び通常業務
10日目(12/11・金)	C	窓口対応及び通常業務 15:00 人事交流交流会 16:30 修了式

※この人事交流プログラムの内容は、変更される場合があります。

2. 人事交流受入予定人数 1 人（松山大学教務課）

3. 人事交流受入担当者

部 課 係 名： 教育学生支援部教育支援課共通教育チーム

人事交流受入責任者： 教育学生支援部長 川上 敏彦

人事交流受入担当者： 共通教育TL 横田 勝

平成21年度松山大学SPOD人事交流プログラム（案）

部署名： 教務部教務課

1. 人事交流プログラム

(1) 受入期間：平成21年11月30日～12月11日の10日間（土、日曜除く）

(2) 勤務時間：シフト勤務（A8:00-11:30 12:30-16:30、B8:30-12:30 13:30-17:00、C9:30-12:30 13:30-18:00）とする。

(3) 配属される部署の名称：教務部教務課(5号館1階)

(4) スケジュール

人事交流日程 (月/日・曜日)	シフト 勤務	人事交流業務内容
1日目(11/30・月)	B	(総務部) 8:30 受付、オリエンテーション 9:00 受入式 9:15 大学全体の業務、事務組織の概要を説明 10:30 文京キャンパス見学、学内案内等、挨拶回り、終了後教務部へ(教務部) 13:30 教務部業務等説明、窓口対応(※1)及び通常業務(※2)
2日目(12/1・火)	B	窓口対応及び通常業務
3日目(12/2・水)	A	窓口対応及び通常業務
4日目(12/3・木)	A	窓口対応及び通常業務、
5日目(12/4・金)	A	窓口対応及び通常業務
6日目(12/7・月)	C	窓口対応及び通常業務
7日目(12/8・火)	C	窓口対応及び通常業務
8日目(12/9・水)	C	窓口対応及び通常業務
9日目(12/10・木)	B	窓口対応及び通常業務
10日目(12/11・金)	B	窓口対応及び通常業務、まとめ 16:00 修了証交付式および事務連絡(総務部)

※この人事交流プログラムの内容は、変更される場合があります。

2. 人事交流受入予定人数 1 人

3. 人事交流受入担当者

部 課 係 名 : 教務部教務課

人事交流受入責任者 : 教 務 部 長 奥 村 泰 之

人事交流受入担当者 : 教務部課長補佐 森 岡 祥 子

(※1) カウンターでの学生対応、電話対応

(※2) 授業用資料印刷、出席管理、教室管理、印刷物作成、授業サポート、各種教授会資料作成、後期試験実施準備 など

教務部教務課は次の事務を掌る。

- (1) 学生便覧およびシラバス等に関すること。
- (2) 学則その他教務関係諸規程の制定，改廃に関すること。
- (3) 大学の学部，学科および大学院の研究科，専攻の設置，増設，廃止に関すること。
- (4) 文部科学省に対する認可申請，届出，報告に関すること。
- (5) 授業時間割の編成および教室の割当，使用に関すること。
- (6) 年間行事計画に関すること。
- (7) 教職課程および司書・司書教諭課程に関すること。
- (8) 非常勤講師に関すること。
- (9) 各種講座(簿記，教職)に関すること。
- (10) 科目等履修生，委託生，研究生，研究科研究員に関すること。
- (11) 教学会議，全学教授会，各学部教授会，各研究科委員会，教学委員会，教務委員会，自己点検・評価委員会及びFD委員会に関すること。
- (12) 各種調査(学校基本調査等)，統計(文部統計等)に関すること。
- (13) 学籍に関すること。
- (14) 入学，卒業に関すること。
- (15) 休学，退学，除籍，転部(科)，復学に関すること。
- (16) 履修に関すること。
- (17) 授業に関すること。
- (18) 各種証明書(成績，卒業証明書等)に関すること。
- (19) 各試験(学期末試験，再試験，追試験等)に関すること。
- (20) インターンシップに関すること。
- (21) 各学部教員に関すること。
- (22) 大学院に関すること。
- (23) その他教務関係全般に関すること。

SPOD 遠隔講義システム発信者用マニュアル（案）

平成21年11月作成

手順	内容	備考
講義2週間前	受講者の決定 通信テストの日程調整 ■新しく受講希望のあった大学のみテストをする。 配信イメージを作成 講師へ資料・必要物品の確認の依頼をしてもらう	〆切講義5日前
講義1週間前	受講者名簿の〆切 講師へ受講者名簿を送付する 遠隔担当者の連絡先（携帯電話等）〆切 ※取扱注意	
講義5日前	講師からの資料・必要物品等の〆切 受信校へ資料・必要物品等・遠隔担当者名簿・アンケートを送付	
講義当日 講義1時間前	セッティング システム本体・ディスプレイ・パソコン・プロジェクター・DVD・カメラ・マイクの設定 ■PCとデータソリューションボックスをつなぐ。 ■カメラは三脚にセットし、講師の目線の高さまで伸ばし、正面へ置く。 ホワイトボードへ模造紙を貼る ※DVDを使用する場合は、スライドに映ったDVD映像を直接カメラで映す。	ディスプレイの角度は適宜変更する ホワイトボードへ直接書くと受信者側が見えにくいため模造紙を貼る
講義20分前	受信校へ発信する ■映像・音声・データの確認。 ■受信側へマイクをOFFにしてもらうよう呼びかける。 カメラアングルとズームを調節 ■講師の上半身を映す。 ■リモコンTボタンを押すと画像が大きくなり、Wボタンを押すと小さくなる。	通常接続またはカスケード接続
多地点接続	通常接続（最大6地点まで） ■親機1台、子端末5台 ■ディスプレイには分割して全受信校の映像が映る。 カスケード接続（7地点以上最大10地点まで）	

	■親機 2 台、各親機に 4 台ずつの子端末を接続して最大 10 地点まで接続可能。 ■ディスプレイには、音声の一番大きい端末が映る（音声検出モード）。	
講義中	講師が移動した場合、カメラを操作 ■適宜、ズーム等。	
ワーク	カメラ映像は、ワークの様子を映す ■ワークの発表は、カメラに映るよう前に行う。 ■パソコンを使つてのワークについては、1 台はデータソリューションボックスに接続し受信者側にも見られるようにする。 ※遠隔でのワークは難しいという意見あり（要検討）。	ディスプレイの角度は適宜変更する
質疑応答	カメラで質問者を映す ※質問者は映さなくてよいという意見もあり（要検討）。	ディスプレイの角度は適宜変更する
講義中のトラブル	各校の遠隔担当者と連絡を取り対応する ■香川短期大学は、データが途中で切れる場合があるので、その場合は、香川短期大学の担当者から連絡をもらい、データソリューションボックスの SEND ボタンを押し一度切断し（10 秒程度待つ）もう一度 SEND ボタン押し接続する必要がある。	遠隔担当者名簿を利用
講師への事前説明	◇いつもより若干、声を大きくゆっくりとマイクを意識して話してもらう。 ◇スライド映像は、5 秒程度遅れて受信側へ届くので、スライドを切り替えて 5 秒経過後話してもらう。 ◇ホワイトボードを使用する場合は、模造紙の上から黒太字のマジックで書いてもらう。 ◇質疑応答の時、受信側へも呼びかけをしてもらう。 ◇適宜、視線をカメラへ向けてもらう。	
今後の検討課題	◇受信校が多数の場合は、映像の乱れがある。 ◇講師が移動した時の音声聞こえにくい。 ◇質問者の音声聞こえにくい。 ◇質問者をカメラで映す必要があるか。 ◇遠隔でのワークは難しい。 ◇発信者側の遠隔担当は最低 2 名必要。	

SPOD遠隔講義システム受信者用マニュアル（案）

平成21年11月作成

手順	内容	備考
講義2週間前までに	主催校へ受講者の申込をする	
講義2週間前	通信テストの日程調整 ■新しく受講希望のあった大学のみテストをする。 通信テスト（映像・音声・データ送信） ■当日と同じ設定（配置）でテストをする。	
講義1週間前	受講者名簿の提出 遠隔担当者の連絡先（携帯電話等）の提出 ※取扱注意	
講義5日前	発信校から資料・必要物品等・遠隔担当者名簿・アンケートが送られてきたら、資料コピー・物品等準備する	
講義当日 講義1時間前	セッティング システム本体・ディスプレイ・パソコン・プロジェクター・カメラ・マイクの設定	ディスプレイの角度は適宜変更する
講義20分前	発信校から着信 映像・音声・データの確認 ■PCデータを受信中は画面左上にPCの絵が表示される。PCの絵が表示された後、数秒後にデータが映される。 ※PCの絵が表示されているものの画面が切り替わらない、またはPCの絵の表示もなく画面が暗転したままの状態の場合は発信校の遠隔担当者に連絡。 ■画面右下にPacketLossの表示がでた場合、回線に負荷がかかっていることがあるので、映像・音声ともに乱れることがある。 ※多地点接続の際に多く見られる現象であり、特に連絡の必要なし。ただし、まれに回線の負荷が原因で画面がフリーズする場合があります、その場合は再接続が必要となることがあるので、直ちに発信校の遠隔担当者に連絡。 カメラアングルとズームを調節 ■受講者を大きく映す。 ■講義中は質疑応答時以外マイクをOFFにする。	通常接続またはカスケード接続

多地点接続	通常接続（最大6地点まで） ■親機1台、子端末5台 ■ディスプレイには分割して全受信校の映像が映る。 カスケード接続（7地点以上最大10地点まで） ■親機2台、各親機に4台ずつの子端末を接続して最大10地点まで接続可能。 ■ディスプレイには、音声の一番大きい端末が映る（音声検出モード）。	
講義中	カメラ映像は受講者を大きく映す ■受講者側のカメラ映像は、発信校に送信されており、それを確認しながら講義者が講習を進めていくため。 ■リモコンTボタンを押すと画像が大きくなり、Wボタンを押すと小さくなる。	
ワーク	ワークの発表は、カメラに映るよう前に行う ■講習受信中は部屋の照明を落としている場合が多いので、発表時の照明に注意する。発表者が鮮明に映るように調整。 ■発表終了後はマイクの電源をOFFにする。 カメラは、発表資料にズームする ※遠隔でのワークは難しいという意見あり（要検討）。	ディスプレイの角度は適宜変更する
質疑応答	カメラで質問者を映す ■質問者は、声を大きくゆっくりはっきりと話す。	ディスプレイの角度は適宜変更する
講義中のトラブル	発信校の遠隔担当者と連絡を取り対応する ■データが途中で切れた場合等は、発信者の遠隔担当者に連絡し、対応を待つ。	遠隔担当者名簿を利用
受講者への事前説明	◇多地点接続の場合は、多少の映像・音声の乱れがあることを事前に説明。 ◇マイクの音声聞きづらい場合は、各校のシステム本体でもボリューム調整がある程度可能なので各校の担当者まで知らせてもらうように伝える（設置状況によっては調整ができない場合もあるので、各校の遠隔担当者が事前に要確認）。	発信者側が集音マイクの場合は、雑音が入り聞きとりにくい場合がある。
今後の検討課題	◇ワークの時間は持て余してしまうことが多い。 ◇ワークをとり入れる講習の場合は、事前にそのことを連絡してもらう。	

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約

〔平成 20 年 10 月 18 日
制 定〕

(名称)

第1条 本会は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）と称する。

(目的)

第2条 SPODは、四国地区の大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）の連携・協働により、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 SPODは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) FD／SDプログラム等の調査研究及び開発
- (2) FD／SDプログラム等の共同試行、共同実施
- (3) FDe r（ファカルティー・ディベロッパー）の養成
- (4) 参加大学等間における職員派遣等による交流
- (5) その他SPODの目的を達成するために必要な活動

(加盟校)

第4条 SPODは、別表第1に定める加盟校をもって構成する。

2 四国地区の大学等で、SPODの目的及び事業に賛同するものは、新たにSPOD加盟校となることができる。ただし、その大学等の所在する県のコア校の承認を得なければならない。

(コア校)

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

2 コア校は、共同でネットワークコアを形成して、第3条各号の事業を企画立案、実施するほか、各県内の加盟校からの意見の集約及び調整等を行う。

(その他の加盟校)

第6条 加盟校のうち、前条のコア校以外の大学等は、ネットワークコアの依頼に応じて、第3条各号の事業に参加する。

(代表校)

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

- 2 代表校は、コア校の互選により選出する。
- 3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

(総会)

第8条 SPODに、総会を置く。

- 2 総会は、加盟校をもって構成し、代表校が招集する。
- 3 総会の議長は、代表校がつとめる。
- 4 加盟校は、当該加盟校を代表して総会に出席する者1人（以下「代表者」という。）を、事前に登録しなければならない。ただし、加盟校に所属する他の者が、事前に登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。
- 5 総会は、次の事項を審議する。
 - (1) SPODの活動方針及び活動報告に関すること。

(2) SPODの規約に関すること(ただし、別表を除く)。

(3) その他全加盟校による審議が望ましい事項

6 総会は、加盟校の過半数が出席しなければ、開会することができない。ただし、加盟校は、審議事項があらかじめ決定している場合においては、事前の意見提出をもって出席に代えることができる。

7 総会の議事は、出席の加盟校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(ネットワークコア運営協議会)

第9条 ネットワークコアに、ネットワークコア運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、コア校をもって構成し、原則として月1回程度開催する。

3 協議会は、次の事項を協議する。

(1) SPOD及びネットワークコアの活動に係る企画立案及び実施に関すること。

(2) ネットワークコアの行う研究開発、人材育成等に関すること。

(3) その他SPODに係る重要な事項

4 協議会における協議概要及び配付資料は、原則として加盟校に配付する。

(事業評価委員会)

第10条 協議会が作成した実績報告書を基に事業評価を行うため、協議会に、事業評価委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、その委員の過半数をSPODの加盟校以外に所属する者により構成する。

3 委員会は、第1項に定める事業評価を行った後、その結果を協議会に報告する。

(事務局)

第11条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

(その他)

第12条 本規約に定めるもののほか、SPODの運営に関し必要な事項は、総会又は運営協議会が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成20年10月18日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に任命される第7条第1項の代表校の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

3 別表は、新たな加盟校があった場合等に適宜改訂を行うものとする。

別表第1 加盟校

徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
香川県立保健医療大学
愛媛県立医療技術大学
高知女子大学
高知工科大学
四国大学
徳島文理大学
四国学院大学
高松大学
聖カタリナ大学
松山大学
松山東雲女子大学
高知短期大学
四国大学短期大学部
徳島工業短期大学
徳島文理大学短期大学部
香川短期大学
瀬戸内短期大学
高松短期大学
今治明德短期大学
愛媛女子短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
松山東雲短期大学
松山短期大学
高知学園短期大学
阿南工業高等専門学校
香川高等専門学校
新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

別表第2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学